

平成 23 年度 業務実績報告書

参考資料集

平成 24 年 6 月

公立大学法人 名古屋市立大学

目次

年度計画 No.	資料名	頁数
2	教養教育カリキュラム新旧対照表	1
2	教養教育修得必要単位数の新旧比較表	5
4	薬学部 生命薬科学演習のシラバス	11
5	人文社会学部 家族社会学 2 受講生感想	12
5	2011年9月24日付北陸中日新聞(人文社会学部 能登島実習)	13
13	人間文化研究科 平成23年度の課題研究科目概要	14
14	国際ワークショップ「歴史的町並みを活かしたまちづくり - 橘町を対象として」概要、実績	16
14	国際ワークショップ「美術史と模写-Scroveni 礼拝堂のGiottoのフレスコ画より」概要、実績、講演会ポスター	17
14	サークルKサンクスとの連携プロジェクト概要、実績	19
17	大学間交流協定実績(年度別)	20
21	大学満足度調査結果、結果分析	23
21	授業評価アンケート結果	46
24	「最先端・次世代研究開発プログラム」に採択された研究課題概要	48
24	健康科学講座オープンカレッジのパンフレット	49
26	「名古屋市立大学 大学院薬学研究科薬学研究科 創薬基盤科学研究所 設立記念シンポジウム」概要	57
27	平成23年度名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター概要、講座概要	58
27	平成23年度愛知県薬剤師会生涯学習特別委員会企画講座	61
27	文科省補助事業(GP)「チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成」概要	62
28	経済学研究科附属経済研究所 平成23年度プロジェクト研究概要	69
29	人間文化研究科附属人間文化研究所 平成23年度プロジェクト研究概要	70
29	「文化財を守る」講演会・シンポジウム概要、実績、ポスター	71
30	「建築遺産の保存：研究と応用」企画展・国際シンポジウム概要、実績、ポスター	73
30	「3.11 東日本大震災への追悼展覧会 失われた街」展覧会・シンポジウム概要、実績、ポスター	76
31	なごや看護生涯学習セミナー概要	79
31	看護研究サポートプロジェクト概要	80
37	博物館共同ワークショップ「名古屋市博物館×名古屋市立大学×九州国立博物館 ワークショップでござる」ポスター	81

37	千種生涯学習センターとの共催講座「人にやさしいデザイン」概要、実績	82
38	各研究所シンポジウム等実績一覧	83
38	公開講座等実績一覧（平成 24 年 3 月 31 日現在）	84
39	経済学研究科附属経済研究所 第 16 回 公開シンポジウム概要	87
41	審議会等委員会就任状況一覧	88
41	ウェルフェア 2011 開催結果報告書（抜粋）	90
44	東海経済活性化フォーラム概要	94
（社会貢献） 法人として 特色ある取 り組み（2）	「NAGOYA アカリナイト・アカリのコンテスト」概要	96
45	IEPC EXPRESS 1月号（2012年1月1日発行）	97
45	大学概要（平成 23 年度）（抜粋）	99
56	平成 23 年度 e ラーニング教材一覧、対象受講者数、受講人数	103
71	総合情報センターのウェブページに掲載されている FAQ	106
72	役員会、教育研究審議会、経営審議会の開催回数と主な議題	111
73	理学系新学部設置構想概要（システム自然科学研究科による検討資料）	115
73	人文社会学部再編概要	119
73	芸術工学部及び芸術工学研究科組織改正概要	122
74	公立大学法人名古屋市立大学教員業績評価実施要項	123
75	研修計画及び各研修概要	124
76	女性研究者支援室概要	127
76	学内保育所概要	129
76	男女共同参画フォーラムのポスター	131
77	平成 22 年度及び平成 23 年度の組織図	132
85	管理経費前年度比較	136
86	電気・ガス・水道使用量等	137
89	ウェブサイトのトップページイメージ	138
89	「創新」2012 特別号	139
89	4 キャンパスの看板写真	143
94	「2011 国際森林年 名古屋市立大学市民シンポジウム」結果報告	147
97	公立大学法人名古屋市立大学と名古屋市立大学生生活協同組合との間における災害時の相互協力に関する協定	148

英語リフレクション2(再履修振替用)	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* トイツ語A	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* トイツ語B	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* トイツ語C	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* トイツ語D	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* フランス語A	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* フランス語B	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* フランス語C	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* フランス語D	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* 中国語A	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* 中国語B	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* 中国語C	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* 中国語D	1	1	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選	選
* 日本語リーディング・リスニング1	1	1	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
* 日本語ライティング1	1	1	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
* 日本語リーディング・リスニング2	1	1	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
* 日本語ライティング2	1	1	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
* 日本語プレゼンテーション1	1	1	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
* 日本語ディスカッション1	1	1	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
* 日本語プレゼンテーション2	1	1	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
* 日本語ディスカッション2	1	1	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自

情報科目	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
授業科目								
* 情報処理基礎	1	2	選	選	選	選	必	選
情報処理応用	1	2	選	選	選	選	必	選
* 情報処理	1	2	選	選	選	選	必	選
* 情報検索基礎	1	2	選	選	選	選	必	選

健康・スポーツ科目	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
授業科目								
* 健康・スポーツ科学論	1	2	必	必	必	必	必	必
* 健康・スポーツ実技	1	1	必	必	必	必	必	必

ボラティア科目	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
授業科目								
ボラティア科目	1	1	自	選	選	選	自	自

(2)基礎科目 ア 物理学	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
授業科目(副題)								
基礎物理学	1	2	必	必				
基礎物理学	1	2	必	必				
物理学基礎 A(力学基礎)	1	2		必				
物理学基礎 B(力学一般)	1	2		必				
物理学基礎 (電磁気学)	1	2		選				
物理学基礎 (近代物理学)	1	2	選	選				

化学	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
授業科目								
無機化学	1	2	選	選				
有機化学	1	2	選	必				
基礎化学	1	2	選	選				
物理化学	1	2	選	選				
化学分光学	1	2	選	選				
生体分子化学	1	2	必	選				

ウ	生物学	生物学
授業科目	基礎生物学	基礎生物学
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	必	選
薬		必/自
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	生物学基礎	生物学基礎
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	必/自
薬		必/自
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	植物生命科学	植物生命科学
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬		
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	生物学基礎	生物学基礎
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医		選
薬		
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		

工	自然科学実験	自然科学実験
授業科目	* 自然科学実験	* 自然科学実験
配当 年次	1	1
単位 数	1	1
医	必	必
薬	必	必
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		

才	数学・統計学	数学・統計学
授業科目	微分積分学	微分積分学
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	微分積分学	微分積分学
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	線形代数	線形代数
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	* 数学A1	* 数学A1
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	* 数学B1	* 数学B1
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	* 数学A2	* 数学A2
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	* 数学B2	* 数学B2
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	数学基礎	数学基礎
配当 年次	1	1
単位 数	4	4
医	必	必
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		必
看護		
授業科目	統計学	統計学
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	* 統計学A1	* 統計学A1
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	統計学A2	統計学A2
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	数学基礎	数学基礎
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		必
看護		
授業科目	応用数学	応用数学
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		必
看護		
授業科目	数学基礎演習	数学基礎演習
配当 年次	1	1
単位 数	1	1
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		必
看護		
授業科目	応用数学演習	応用数学演習
配当 年次	1	1
単位 数	1	1
医	選	選
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		必
看護		

力	早期体験学習	早期体験学習
授業科目	医薬看護連携早期体験学習	医薬看護連携早期体験学習
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	必	必
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		
授業科目	生命薬科学研究入門	生命薬科学研究入門
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医	必	必
薬	選	選
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		

キ	芸術工学基礎	看護基礎
授業科目	芸術工学概論	基礎科学
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医		
薬		
経済		
人文 社会		
芸術 工学	必	
看護		
授業科目	人間関係論	家族社会学
配当 年次	1	2
単位 数	2	2
医		
薬		
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		

ク	人間関係論	看護基礎
授業科目	人間関係論	看護基礎
配当 年次	1	1
単位 数	2	2
医		
薬		
経済		
人文 社会		
芸術 工学		
看護		

「必」= 必修科目、「選」= 選択科目、「自」= 自由科目、「国必」= 国際文化学科のみ必修科目、* 印 = 指定科目 (クラスおよび学期・曜日・時間を指定)

【年度計画 2】

教養教育修得必要単位数の新旧比較表

(1) 医学部

平成 23 年度

区分		最低修得必要単位数	
共通科目	テーマ科目	2 単位	
	健康・福祉 環境	2 単位	
	文系共通科目	6 単位	
	理系共通科目	自由科目	
	外国語科目	英語	4 単位
		未修外国語	2 単位
	情報科目	2 単位	
	健康・スポーツ科目	3 単位	
	ポランティア科目	自由科目	
	基礎科目	物理学	4 単位
化学		2 単位	
生物学		2 単位	
実験		2 単位	
数学・統計学		数学 4 単位, 統計学 2 単位	
医薬看連携早期体験学習		2 単位	
合計		4 1 単位	

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数	
共通科目	大学特色科目	2 単位	
	一般教養科目	現代社会の諸相	6 単位
		文化と人間性の探究	4 単位
		人間と自然	2 単位
	外国語科目	自然と数理の探究	4 単位
		英語	2 単位
	情報科目	未修外国語	2 単位
		健康・スポーツ科目	2 単位
		ポランティア科目	自由科目
	基礎科目	物理学	4 単位
化学		4 単位	
生物学		1 単位	
実験		4 単位	
数学・統計学		2 単位	
医薬看連携早期体験学習		3 9 単位	
合計		3 9 単位	

(2) 薬学部

平成 23 年度

区分		最低修得必要単位数	
共通科目	テーマ科目	2 単位	
	健康・福祉環境	2 単位	
	文系共通科目	6 単位	
	理系共通科目	自由科目	
	外国語科目	英語	4 単位
		未修外国語	2 単位
	情報科目	2 単位	
	健康・スポーツ科目	3 単位	
	ボランティア科目		
	基礎科目	物理学	4 単位
		化学	2 単位
		生物学	2 単位
		実験	2 単位
数学・統計学		4 単位	
医薬看連携早期体験学習			
生命薬科学研究入門			
合計	39 単位		

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数	
共通科目	大学特色科目	4 単位	
	一般教養科目	現代社会の諸相	4 単位
		文化と人間性の探究	
		人間と自然	
	外国語科目	自然と数理の探究	2 単位
		英語	4 単位
	未修外国語		2 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		2 単位
	ボランティア科目		
	基礎科目	物理学	2 単位
		数学	左記の他、3 区分のいずれかの科目から 4 単位
化学			2 単位
生物学			2 単位
実験			1 単位
医薬看連携早期体験学習			
生命薬科学研究入門			
合計	35 単位		

(3) 経済学部

平成 23 年度

区分		最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	2 単位
	健康・福祉 環境	2 単位
共通科目	文系共通科目	4 単位
	理系共通科目	2 単位
共通科目	英語	6 単位
	外国語科目 未修外国語	4 単位
共通科目	情報科目	2 単位
	健康・スポーツ科目 ボランティア科目	3 単位
基礎科目	数学・統計学	数学 6 単位 統計学 2 単位
合計		3 9 単位

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数
共通科目	大学特色科目	4 単位
	現代社会の諸相 文化と人間性の探究	4 単位
共通科目	人間と自然 自然と数理の探究	2 単位
	英語	6 単位
共通科目	外国語科目 未修外国語	4 単位
	情報科目	2 単位
共通科目	健康・スポーツ科目 ボランティア科目	2 単位
	基礎科目	数学・統計学
合計		3 8 単位

(4) 人文社会学部（人間科学科・現代社会学科）

平成 23 年度

区分		最低修得必要単位数
テーマ科目	健康・福祉	2 単位
	環境	2 単位
文系共通科目		4 単位
理系共通科目		2 単位
外国語科目	英語	6 単位
	未修外国語	4 単位
情報科目		2 単位
健康・スポーツ科目		3 単位
ボランティア科目		
合計		3 6 単位
共通科目		左記単位以外に 1 1 単 位以上

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数
一般教養科目	大学特色科目	2 単位
	現代社会の諸相 文化と人間性の探究	4 単位
外国語科目	人間と自然	4 単位
	自然と数理の探究	6 単位
英語		4 単位
未修外国語		2 単位
情報科目		2 単位
健康・スポーツ科目		2 単位
ボランティア科目		
合計		3 6 単位
共通科目		左記単位以外に 1 2 単 位以上

(5) 人文社会学部（国際文化学科）

平成 23 年度

区分		最低修得必要単位数
テーマ科目	健康・福祉	2 単位
	環境	2 単位
文系共通科目		4 単位
理系共通科目		2 単位
外国語科目	英語	8 単位
	未修外国語	4 単位
情報科目		2 単位
健康・スポーツ科目		3 単位
ボランティア科目		
合計		3 6 単位
共通科目		左記単位以外に 9 単 位以上

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数
一般教養科目	大学特色科目	2 単位
	現代社会の諸相 文化と人間性の探究	4 単位
外国語科目	人間と自然	4 単位
	自然と数理の探究	8 単位
英語		4 単位
未修外国語		2 単位
情報科目		2 単位
健康・スポーツ科目		2 単位
ボランティア科目		
合計		3 6 単位
共通科目		左記単位以外に 1 0 単 位以上

(6) 芸術工学部

平成 23 年度

区分		最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	2 単位
	健康・福祉 環境	2 単位
共通科目	文系共通科目	6 単位
	理系共通科目	自由科目
共通科目	英語	4 単位
	未修外国語	2 単位
共通科目	情報科目	6 単位
	健康・スポーツ科目	3 単位
基礎科目	ボランティア科目	自由科目
	数学・統計学	4 単位
基礎科目	芸術工学基礎	2 単位
	合計	31 単位

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数
共通科目	大学特色科目	2 単位
	現代社会の諸相 文化と人間性の探究	2 単位
共通科目	人間と自然 自然と数理の探究	2 単位
	英語	4 単位
共通科目	未修外国語	2 単位
	情報科目	6 単位
基礎科目	健康・スポーツ科目	2 単位
	ボランティア科目	自由科目
基礎科目	数学・統計学	6 単位
	合計	30 単位

(7) 看護学部

平成 23 年度

区分		最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	2 単位
	健康・福祉 環境	2 単位
共通科目	文系共通科目	4 単位
	理系共通科目	4 単位
共通科目	英語	4 単位
	未修外国語	2 単位
共通科目	情報科目	2 単位
	健康・スポーツ科目	3 単位
基礎科目	ボランティア科目	自由科目
	医薬看護連携早期体験学習	2 単位
基礎科目	人間関係論	2 単位
	合計	27 単位

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数
共通科目	大学特色科目	2 単位
	現代社会の諸相 文化と人間性の探究	4 単位
共通科目	人間と自然	4 単位
	自然と数理の探究	4 単位
共通科目	英語	4 単位
	未修外国語	2 単位
共通科目	情報科目	2 単位
	健康・スポーツ科目	2 単位
基礎科目	ボランティア科目	自由科目
	医薬看護連携早期体験学習	2 単位
基礎科目	看護基礎	4 単位
	合計	26 単位

【年度計画 4】

PGSE012020

授業科目名	生命薬科学演習 (P1105) Pharmaceutical and Life Sciences Seminar
担当教員	樋口 恒彦
単位数	2 単位
講義期間 曜日・時限	前期 集中
授業の目的・目標	生命薬科学科は、将来製薬等企業の研究所や大学・国公立研究所の研究者となる学生の育成を目指す学科である。このキャリア構築のために参考となる体験型の取り組みを各種行い、その過程で自身の将来像を考え、目標を持ち、それにつながる高い研究能力の獲得を生む研究意欲を高めるきっかけを作ることが目的であり目標である。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業や国公立研究所における研究の概略を知り、説明できる。 ・ 企業や国公立研究所における研究を行うためには、自身がどのような能力を身につけるべきかを知る。 ・ PBL チューターを経験し、その役割・意義を学ぶ。
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 製薬企業・国公立研究所の研究員の講演 2. 研究所の見学と研究員へのインタビュー 3. 製薬企業研究所の見学旅行 4. 1年次「生命薬科学入門」PBLのチューター 以上の4種の取り組みのうちの3種程度を履修する（詳しくは履修要件参照）
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講演 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国立医薬品食品衛生研究所 研究員 (2) シオノギ製薬 創薬研究所 篠原俊次 講師（予定） (3) 愛知県警 科学捜査研究所 大山信行 講師（予定） 2. 研究所見学と研究員へのインタビュー <p>4つの製薬企業と3つの国公立研究所の中で希望のところに outgoing 見学・インタビューを行い、後日グループで発表する</p> 3. 製薬企業研究所の見学旅行 <p>6月下旬に1泊2日で静岡・東京の製薬企業研究所を見学し、研究員との質疑応答を行う</p> 4. 1年次「生命薬科学入門」PBLのチューター <p>PBLに必要なシナリオ作りに参加し、生命薬科学入門においてチューターとしての役割を果たす</p>
成績判定基準	講演とチューターは、出席のみ 研究所見学と研究員へのインタビューは、参加及びグループでの発表 製薬企業研究所の見学旅行については出席
教科書・テキスト	
参考文献	
履修要件	本演習はポイント制とし、演習の履修には30ポイント以上を得ることを要件とする <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来講師による講演 (1講演 2ポイント) 4講演 2) 企業等への [見学+インタビュー]、発表 12ポイント 3) 企業への見学旅行 [+レポート] 15ポイント 4) 生命薬科学入門PBLのチューター (12ポイント) (12名まで) 上記を組み合わせで履修し、30ポイント以上を得る
履修上の注意事項	
連絡先・オフィスアワー	担当：樋口恒彦（精密有機反応学分野、研究北棟 6F 西）TEL 052-836-3435 オフィスアワー：講演者については講演の直後の時間
備考	4年次 選択科目（生命薬科学科）

【年度計画5】

「家族社会学2」の名古屋市子ども青少年局の現・元職員による講義に関する受講生の感想（33通提出）

受講生が提出した代表的な感想は次の通りである。

「実際に、市の子育て政策に携わる市の職員の方からお話を聞くことができ良かったです。自分がなんとなく常識だと思っていたことが、何度もくつがえされて、とても興味深い授業でした。」

「「保育士に求められる役割」の中では、保育士の責任の重さを痛感した。牛乳アレルギーや、小麦粉アレルギーの子供への対応の話から、常日頃の細やかな心遣いの必要性に驚いた。また発達障害児と健常児の合同保育、モンスターペアレント対応、小学校との連携、ソーシャル・ワーカーとしての役割、外国人親子への対応等々、保育の現場で求められる役割が、大変過重になっているように見受けられた。」

「今回の講義で、私の印象に強く残ったのは、保育士の役割についてです。…課題の多くは園児のみでなく、その保護者まで支援の対象となっている点から、やはり保育士、保育園は、単に子どものためにあるだけでなく、その家庭、さらにはその地域にまで関わる重要な存在であるということを感じました。」

「保育の現場では多様なニーズに対応するだけでなく、保護者の相談にのったりとソーシャル・ワーカーとしての役目も果たさなければならないことは、実に負担が大きい。現在待機児童を解消するために保育園の定員を増やす、いわば「定員の弾力化」によって市はこの危機を乗り越えようとしているが、これは保育士一人あたりの仕事がより増加するという意味している。

世間では母親の子育てストレスについて盛んに議論されているが、このままの体勢で無理な定員拡大を進めるのであれば、いずれは保育士の方が子育てストレスで倒れてしまうのではいかと心配だ。」

「保育現場の課題は多岐に渡っているため、保育に関する高い専門性だけでなく、他にも様々なことに関する知識が必要であると分かった。例えば、子どもと深くかかわる保育園では児童虐待に早期に気付き対処することが求められている。

家庭支援や障害児保育、子育て相談など様々な保育ニーズに応えていく保育園であるが、昨今はソーシャル・ワーカーとしての役割も期待されていることを知った。社会の動きを正確に捉えながら、社会のなかで保育を位置づけ、子どもやその親の福祉を向上させていくことが求められているのである。」

能登島の変遷発表

名古屋市立大生 実習を終了

七尾市の能登島で学
外実習をしていた名古屋市立大人文社会学部の学生が、市役所で成果の発表会を開いた。

同大の赤嶺淳准教授の集中講義「国内フィールドワーク」を受講している学生ら二十

六人が参加した。十九日二十三日までの日程で滞在し、「能登島の暮らしの変遷」をテーマに、民宿を営んだり、まちづくりに携わったりしている住民ら六人から聞き取った。

発表会には、学生を含め、市職員ら約六十人が参加した。学生は、能登島と同市石崎町を結ぶ能登島大橋が開通して便利になった一方で、島内で疎遠化が進んだという住民の話などを紹介。「時代の流れの中で、能登島の住民の人生が変わっていったというのが印象だった」などと、感想を話していた。

(倉形友理)

【年度計画 13】

人間文化研究科 課題研究科目について

人間文化研究科は人文社会学部を基礎にする大学院で、人間、社会、文化の各学問分野を学ぶことができます。本研究科には大きな特色として、課題研究科目があります。

(1) 「課題研究科目」方式について

博士前期課程では、『課題研究科目』方式で学生指導が行われています。これは複数の教員と複数の学生が共同で研究するという方式で、発表や討論を通じて研究を深めていくことができます。学生は、この方式を通じて複数の教員から指導を受けることができます。

(2) 現在開講されている課題研究科目について

課題研究科目名	内容
グローバル社会と地域文化に関する研究	世界の急速なグローバル化に伴い、環境、民族、移民、言語、コミュニケーションなどに起因する諸問題が、相互にからみあいながら複雑化の様相を呈している。諸地域文化との共生の視点に立つ本課題研究科目では、これらの複雑多岐にわたる問題群を、特にフィールドワークに依拠しながら学際的に考察・研究していく。
欧米文化に関する研究	近世から現代までの欧米の文化について、その背景となる社会、歴史、思想を考慮し、その特質、可能性及び現代的意義を研究する。特に、従来のように、欧米を近代市民社会の理想とするような欧米中心主義の立場に立つのではなく、外部世界とたえず交流・衝突して自己変革を遂げてきた欧米が、境界を常に変動させている地域であり、内部的にも個人中心の市民社会と一括りにできないような交錯し合う多民族・多文化・多言語を内包する混淆した地域であるといった、新たな見方に立って欧米を考察することを特徴とする。とりわけ、文化的越境、マイノリティの言語や文化、文化とジェンダー、異文化衝突など多文化主義や共生に関わる現代的な諸問題を、国民国家と EU や NATO などの地域連合・安保体制さらには環境（生活空間、自然との共生）の問題までも視野に入れながら、学際的に考究していく。
日本の文化に関する研究	日本の文化の普遍性と特殊性を考慮に入れながら、現代の日本の文化の由来と問題点を考え、未来を展望する。具体的には、古代中世日本の仏教の受容史、日本の律令の成立と実態の解明、現代日本の言語活動を通して見た日本語の体系と変異の考察、折口学に立脚した沖縄の民俗・祭祀・芸能の分析、近現代の日本文学の講読並びに作家の背景や作品世界の分析、東アジアと近代日本との関係史の追究、などから、日本文化と社会の基層にあるものの考察と近現代日本の多様な文化が共生する社会を多彩な視座からとらえなおしていく。 上記の領域の範囲で、個々の学生の問題意識に沿った課題を、文献資料やフィールドワークから得たデータの読解と、教員と学生との討議を

	通して検討していく。
地域・労働・メディア社会に関する研究	<p>本課題研究科目は、多元的な社会経済システムについて理論的・歴史的・実証的な側面からアプローチする。グローバル化と分権化が交錯する現代社会にあって、「地域」「労働」「メディア社会」、さらには情報をキーワードに、経済・社会の諸領域にまたがる問題を研究対象とする。研究指導は修士論文作成に向けた個別指導を重視し、地方財政論、労働社会学、社会経済史、意思決定論、メディア・政治社会学などの専門分野からの学際的な協働のもとに進めていく。</p> <p>また、本課題研究科目は「ジェンダー・人権・福祉」の領域と相互に関連した研究指導を志向している。</p>
ジェンダー・人権・福祉に関する研究	<p>現代の社会問題を的確にとらえ、それを分析するのに必要な基本的な視点は何かを主題に学習し、これまで軽視されることの少なくなかった「ジェンダー」、「人権」、「福祉」の立場から、社会における諸問題に焦点を当てて研究を進めていく。</p> <p>こうした観点がなぜ必要なのかを理論的・歴史的・実証的に研究し、福祉社会の様々な問題を具体的にとりあげ、研究していく。</p>
「こころ」の発達に関する研究	<p>乳幼児期から老年期にいたる心身の発達のメカニズムを解明することを目的とする。心身の発達には遺伝的要因と、対人関係をはじめとするさまざまな環境要因が関係しており、それらの要因の相互関係を解明することが求められる。さらに、これらのメカニズムを解明するためには、適切な行動指標を決め、それらを測定する妥当性と信頼性の高い方法を開発することが必要になる。</p> <p>このような観点から、「こころ」の発達及び変容を多面的に研究していく。</p>
社会と教育に関する研究	<p>現代社会における少子高齢化、高度情報化、国際化の進展は、子育て不安、学力低下、いじめや不登校問題、さらには多文化教育問題に至る多様な教育問題を提起するに至っている。そして、今そのような諸課題にどのように対処していくべきかの方法や思想、そして実践のあり方が鋭く問われてきている。そこで、本課題研究科目では、このような教育に関する諸問題をめぐって、幼児教育・保育分野、アジアを中心とする比較教育分野、及び教育内容分野(科学教育、音楽教育、英語教育、発育発達)から研究課題を選定し、研究指導を行っていく。</p>

【年度計画 14】

芸術工学研究科 国際ワークショップ 23 年度実績

「歴史的町並みを活かしたまちづくり - 橘町を対象として」

1. 目的 歴史的建造物の保存には、耐震や補強のハード技術の支えが必要で、安全・安心を確保した上でまちづくりに活用する必要がある。国際シンポジウムで文化遺産建築の保護制度、耐震や補強技術とまちづくり事例を学ぶとともに、名古屋市における歴史的建造物の保存事例を視察した上で、橘町のまちづくりを考える。

2. 活動実績

11月14日(月) 15時~16時30分

芸術工学研究科教授、学生2名、名古屋市2名、橘町の方および名古屋仏具研究会関係3名と打合せ。

11月24日(木) 9時~18時

芸術工学研究科教授、招聘教員および留学生9名、名古屋市1名、事前視察。

11月26日(土) 9時30分~12時

芸術工学研究科研究科長、教授、学生4名、海外招聘教員4名、名古屋市4名、コンサルタント1名、橘町の方3名、職人の仕事場を見学したのち、まちづくり案について打合せ。

なお、このワークショップは、平成24年度秋に、橘町の活性化を目的としたまちづくりワークショップを開催することを計画しており、来年度も継続実施予定。

【年度計画 14】

芸術工学研究科 国際ワークショップ

「美術史と模写 - Scrovegni 礼拝堂の Giotto のフレスコ画より」

1 目的

本学大学院芸術工学研究科とイタリア、パドヴァ大学は2011年4月に大学間交流協定を締結した。パドヴァ大学より美術史学者等を招聘し、パドヴァ市のスクローヴェーニ礼拝堂の壁画の模写を通し、フレスコ画、模写の意味、ルネサンス以前の文化・芸術について学ぶ。

2 . 開催期間 平成 23 年 10 月 8 日 ~ 11 月 30 日
11 月 25 日に講演会を開催

3 参加者 招聘教員 3 名、大学院生 1 名、学部生 13 名
講演会は上記に加え、本学留学生 6 名

第3回国際環境ワークショップ

講演会 「フレスコと陰窩」

イタリア・パドヴァ大学

ジョヴァンナ・ヴァレンツァノ教授

日時：2011年11月25日（金曜日） 16：20～

会場：名古屋市立大学・大学院芸術工学研究科
芸工棟 M101

Carolingian Age (751-987) から Giotto までのフレスコ (Fresco) とクレット CRYPT) について講演していただきます。Crypt は過去の歴史・建築・美術を読み取るうえで重要な資料が詰まっています。

今回は、ヴァレンツァノ教授に、発掘現場での研究成果、聖堂地下室から発見されたフレスコについて話しをしていただけることになりました。Giotto までの約 300 年間のフレスコの変化を考察し、「だまし絵」への変遷をひもとくことにより、Crypt の世界観が感じられ、古イタリアの世界観が広がることと思います。



Dr. Giovanna Valenzano (Padova University)

Carolingian Age を中心に中世美術に関して幅広く研究をされ、初期キリスト教美術、Giotto の壁画、ゴシック建築等の著書や論文がある。

【年度計画 14】

サークルK サンクスとの連携プロジェクトについて

テーマ：女性客誘致のための店舗レイアウトの提案

目的：顧客、特に女性客の増加を目的とした、レイアウト、販売戦略などの提案を行う。

参加者：経済学部 河合ゼミ(3年生、5名)、経済研究科教授、
芸術工学部横山研究室(5名)、1~3年生学生(20~30名)、博士後期課程院生、芸術工学研究
科教授、サークルKサンクス(5~6名)、学術課学術広報係長

内 容：前半(平成23年4月~平成23年度9月末)

経済学部学生を主としたインタビュー調査およびアンケート調査

後半

芸術工学部学生によるサークルKサンクスへの店舗レイアウト、販売促進企画等の提案

POP提案グループ(新製品用ショーケース、新製品用POPテンプレート)

シェリエドルチェグループ(手土産用ショッピングバック、パッケージ、内カフェグッズ
プレゼント提案)

綺麗トイレグループ(トイレのブランド化、既存トイレに置くグッズ制作)

実施概要

日付	内容
4月20日	経済学部と芸術工学部学生によるサークルK サンクス塩付通り店ヒアリング
5月12日	経済学部と芸術工学部合同ミーティング (経済学部によるマーケティング調査)
10月6日	サークルK サンクス、経済学部、芸術工学部による全体ミーティングにおいて、経済学部のマーケティング調査結果の報告と芸術工学部の提案に際しての条件整理
11月24日	サークルK サンクス、経済学部、芸術工学部による全体ミーティング (芸術工学部企画内容プレゼン)
12月12日	サークルK サンクス塩付通り店ヒアリング(芸術工学部学生、芸術工学研究科教授、学術広報係長)
1月17日	芸術工学研究科による、芸術工学部学生の提案内容の確認
1月19日	昭和事務所にて、芸術工学部学生による提案内容の中間プレゼン
4月以降	サークルK 向け最終プレゼン予定(芸術工学部)
4月以降	理事長、副理事長向け 学内プレゼン予定(経済学部+芸術工学部)

締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者	
					派遣	受入	派遣	受入
ニューサウスウェールズ大学	経済学部	研究者交流協定	平成2年11月21日	13	/	/	1	0
				14			1	0
				15			1	0
				16			1	0
				17			1	1
				18			1	1
				19			1	0
				20			0	0
				21			0	0
				22			0	0
	23	1	0					
	経済学部	学生交流協定	平成3年11月15日	13	0	0	/	/
				14	1	0		
				15	1	1		
				16	2	0		
				17	2	0		
				18	1	0		
				19	0	0		
				20	0	0		
				21	0	0		
				22	0	0		
	23	2	0					
	医学部	学術交流協定	平成8年12月5日	13	2	0	2	0
				14	3	0	2	0
				15	2	0	1	0
				16	3	0	0	0
				17	2	0	1	0
				18	2	1	1	0
				19	2	0	0	0
				20	2	0	1	0
				21	2	0	1	0
				22	2	0	0	0
	23	2	0	0	0			
	人文社会学部	学術交流協定	平成10年3月30日	13	2	0	1	0
				14	1	0	0	0
				15	1	3	1	0
				16	2	1	1	0
				17	2	1	1	0
				18	2	2	2	0
				19	2	4	0	0
				20	1	2	1	0
				21	0	3	0	0
				22	1	3	0	0
23	0	2	0	0				
計				13	4	0	4	0
				14	5	0	3	0
				15	4	4	3	0
				16	7	1	2	0
				17	6	1	3	1
				18	5	3	4	1
				19	4	4	1	0
				20	3	2	2	0
				21	2	3	1	0
				22	3	3	0	0
23	4	2	1	0				
南カリフォルニア大学	薬学部	学術交流協定	平成4年9月25日	13	3	2	0	0
				14	7	2	1	1
				15	11	2	0	0
				16	12	2	1	0
				17	7	2	1	0
				18	7	0	0	0
				19	3	2	1	0
				20	5	0	1	0
				21	6	2	1	0
				22	8	0	1	0
23	9	0	1	0				
トリノ工科大学	芸術工学部・研究科	一般協定	平成13年1月26日	13	0	0	2	1
				14	0	0	1	2
				15	1	0	1	0
				16	0	1	1	0
				17	0	0	2	0
				18	1	0	1	2
				19	3	0	1	0
20	3	0	1	0				
21	2	0	3	1				

締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者				
					派遣	受入	派遣	受入			
				22	3	0	0	0			
				23	0	0	2	1			
シドニー大学	看護学部 薬学部 医学部	学術交流協定	平成14年3月14日	14	看	8	0	2	0		
					薬	0	0	0	0		
					医	0	0	0	0		
				15	看	7	0	2	0		
					薬	0	0	1	1		
					医	0	0	0	0		
				16	看	8	0	2	0		
					薬	0	0	0	0		
					医	0	0	0	0		
				17	看	0	0	0	0		
					薬	0	0	0	0		
					医	0	0	0	0		
				18	看	0	0	0	0		
					薬	5	0	1	0		
					医	0	0	0	0		
				19	看	0	0	0	0		
					薬	3	0	0	0		
					医	0	0	0	0		
				20	看	0	0	0	0		
					薬	0	0	0	0		
					医	0	0	0	0		
				21	看	0	0	0	0		
					薬	0	0	0	0		
医	0	0	1		0						
22	看	0	0	0	0						
	薬	1	0	0	0						
	医	0	0	0	0						
23	看	0	0	0	0						
	薬	1	0	0	0						
	医	0	0	0	0						
ウィチタ州立大学	システム自然 科学研究科	学術交流協定	平成14年12月12日	14			1	0			
				15			1	0			
				16			1	1			
				17			0	0			
				18			1	0			
				19			0	0			
				20			1	0			
				21			1	0			
				22			0	0			
				23			0	0			
				学術交流協定	学生交流協定	平成14年12月21日	14	2	0		
							15	3	0		
							16	2	1		
							17	0	0		
18	2	0									
19	0	0									
20	3	0									
21	3	0									
22	0	0									
23	0	0									
南京医科大学	医学研究科 薬学研究科	学術交流協定	平成14年11月13日	14	0	0	0	0			
				15	0	0	0	0			
				16	0	0	0	0			
				17	0	0	0	0			
				18	0	0	0	0			
				19	0	0	0	0			
				20	0	0	0	2			
				21	0	0	0	0			
22	0	0	0	0							
23	0	0	0	0							
ハルリム大学	全学	学術交流に関する覚書	平成18年11月16日	18	0	0	0	0			
				19	0	0	0	0			
				20	0	0	0	5			
		学生交流に関する協定	平成22年7月7日	21	0	2	0	0			
				22	0	4	3	0			
		23	4	2	4	1					
ペーチ大学	全学	学術交流協定	平成19年1月10日	18	0	0	0	0			
				19	0	0	0	0			
				20	0	0	0	0			
				21	0	0	0	0			

大学間交流協定の実績(年度別)

平成24年3月31日

締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者	
					派遣	受入	派遣	受入
				22	0	0	1	0
				23	0	0	0	4
コロボ大学	全学	学術交流協定	平成19年1月29日	18	0	0	0	0
				19	0	0	0	0
				20	0	0	0	0
				21	0	0	0	0
				22	0	0	0	0
				23	0	0	0	0
パリ13大学	全学	学術交流協定	平成19年5月15日	19	0	0	0	1
				20	0	0	0	1
				21	1	0	0	0
				22	1	0	0	0
瀋陽医学院	全学	学術交流協定	平成20年12月16日	23	0	0	0	0
				20	0	0	0	2
				21	0	0	0	0
				22	0	0	2	4
ライプツィヒ応用科学大学	全学	学術交流協定	平成21年3月25日	23	0	1	0	1
				21	0	0	1	0
				22	0	0	0	0
浙江大学管理学院	全学	学術交流協定	平成21年5月4日	21	0	0	2	0
				22	0	0	0	0
				23	0	0	0	0
マレーシア国民大学	全学	学術交流協定	平成21年3月3日	21	0	0	1	0
				22	0	0	0	0
				23	0	0	1	0
ベトナム国立大学ホーチミン校	全学	学術交流協定	平成21年3月31日	21	0	0	2	0
				22	0	0	1	3
				23	0	0	0	0
サンティエティエンヌ大学アート・デザイン学校	全学	学術交流協定	平成22年6月10日	22	0	0	0	0
		学生交流の覚書	平成22年12月21日	23	0	0	0	0
中央民族大学	全学	学術交流協定	平成22年6月22日	22	0	0	0	0
		学生交流の覚書		23	3	3	2	0
瀋陽薬科大学	全学	学術交流協定	平成22年8月30日	22	0	0	2	0
				23	0	1	2	0
パドヴァ大学	全学	学術交流協定	平成23年2月9日	22	0	0	1	0
		学生交流の覚書	平成23年3月31日	23	0	3	2	1
南ソウル大学	全学	学術交流協定	平成23年4月22日	23	16	17	1	2
		学生交流の覚書						
シャルジャ大学	全学	学術交流協定	平成23年6月2日	23	0	0	0	0
ルートヴィクスハーフェン経済大学	全学	学術交流協定	平成23年12月12日	23	0	5	0	1
		学生交流の覚書						
総計				13	7	2	6	1
				14	22	2	8	3
				15	26	6	8	1
				16	29	5	7	1
				17	13	3	6	1
				18	20	3	7	3
				19	13	6	3	1
				20	14	2	5	10
				21	14	8	12	2
				22	16	7	12	7
				23	37	33	19	10

協定締結大学数:22件

協定の件数:32件

～～「大学満足度調査」結果について～～

平成23年1月から4月にかけて、学生の皆さんの大学生活をより充実したものとするため、全学部の学生を対象に大学に対する満足度調査を行いました。

その結果は次のとおりです。

◆回答状況

学部／学年		調査対象者数							計	回答数	回答率
		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	卒業生			
医学部	23年度	100	95	78	76	86		78	513	452	88.1%
	22年度	98	80	75	87	78	418	76	494	421	85.2%
	21年度	87	75	86	81	76	405	83	488	353	72.3%
薬学部	23年度	122	96	100	60	59	437	36	473	320	67.7%
	22年度	111	100	97	62	-	370	46	416	263	63.2%
	21年度	120	103	106	-	-	329	101	430	256	59.5%
経済学部	23年度	242	252	228	-	-	722	243	965	785	81.3%
	22年度	237	250	226	-	-	713	209	922	459	49.8%
	21年度	241	246	196	-	-	683	218	901	650	72.1%
人文社会学部	23年度	161	175	181	-	-	517	196	713	529	74.2%
	22年度	176	163	175	-	-	514	196	710	572	80.6%
	21年度	166	172	178	-	-	516	187	703	532	75.7%
芸術工学部	23年度	85	86	83	-	-	254	84	338	240	71.0%
	22年度	83	82	81	-	-	246	88	334	188	56.3%
	21年度	82	83	82	-	-	247	85	332	167	50.3%
看護学部	23年度	79	85	78	-	-	242	85	327	277	84.7%
	22年度	85	80	85	-	-	250	77	327	298	91.1%
	21年度	82	88	76	-	-	246	81	327	281	85.9%
計	23年度	789	789	748	136	145	2,607	722	3,329	2,603	78.2%
	22年度	790	755	739	149	78	2,511	692	3,203	2,201	68.7%
	21年度	778	767	724	81	76	2,426	755	3,181	2,239	70.4%

POINT▶ 全体の回答率は78.2%。昨年度に比べ、9.5ポイント増。

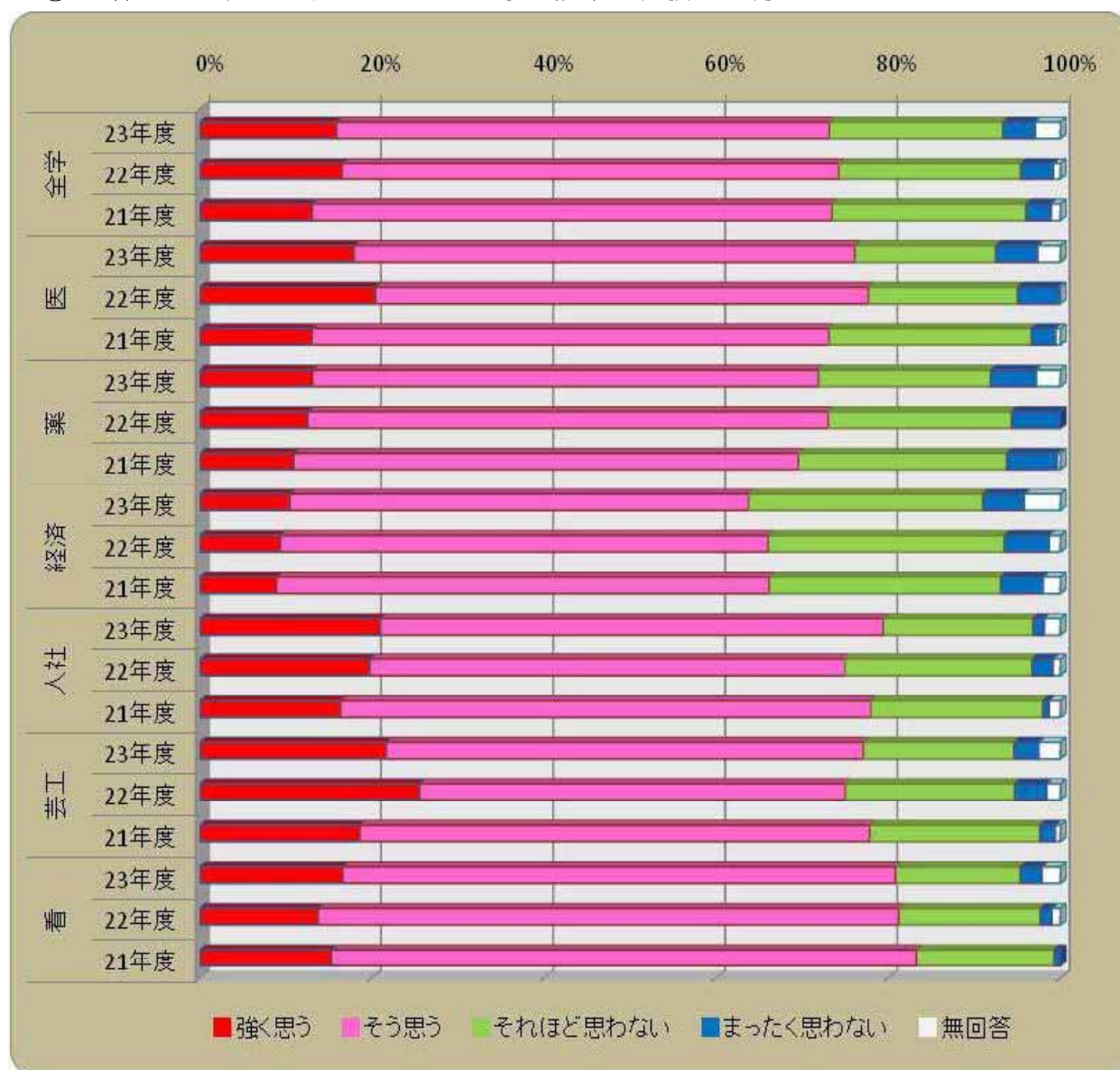
*医学部（88.1%）、看護学部（84.7%）、経済学部（81.3%）の3学部で8割を超えました。

*医学部、薬学部、経済学部、芸術工学部の4学部で、昨年度の回答率を上回り、中でも経済学部は昨年度より31.5ポイントの大幅増となりました。

◆調査結果概要◆

授業の全体的な印象について

① 全体として、これまでのところ大学で授業の経験には満足している



POINT ▶ 全学では「強く思う」、「そう思う」を合わせて73.1%

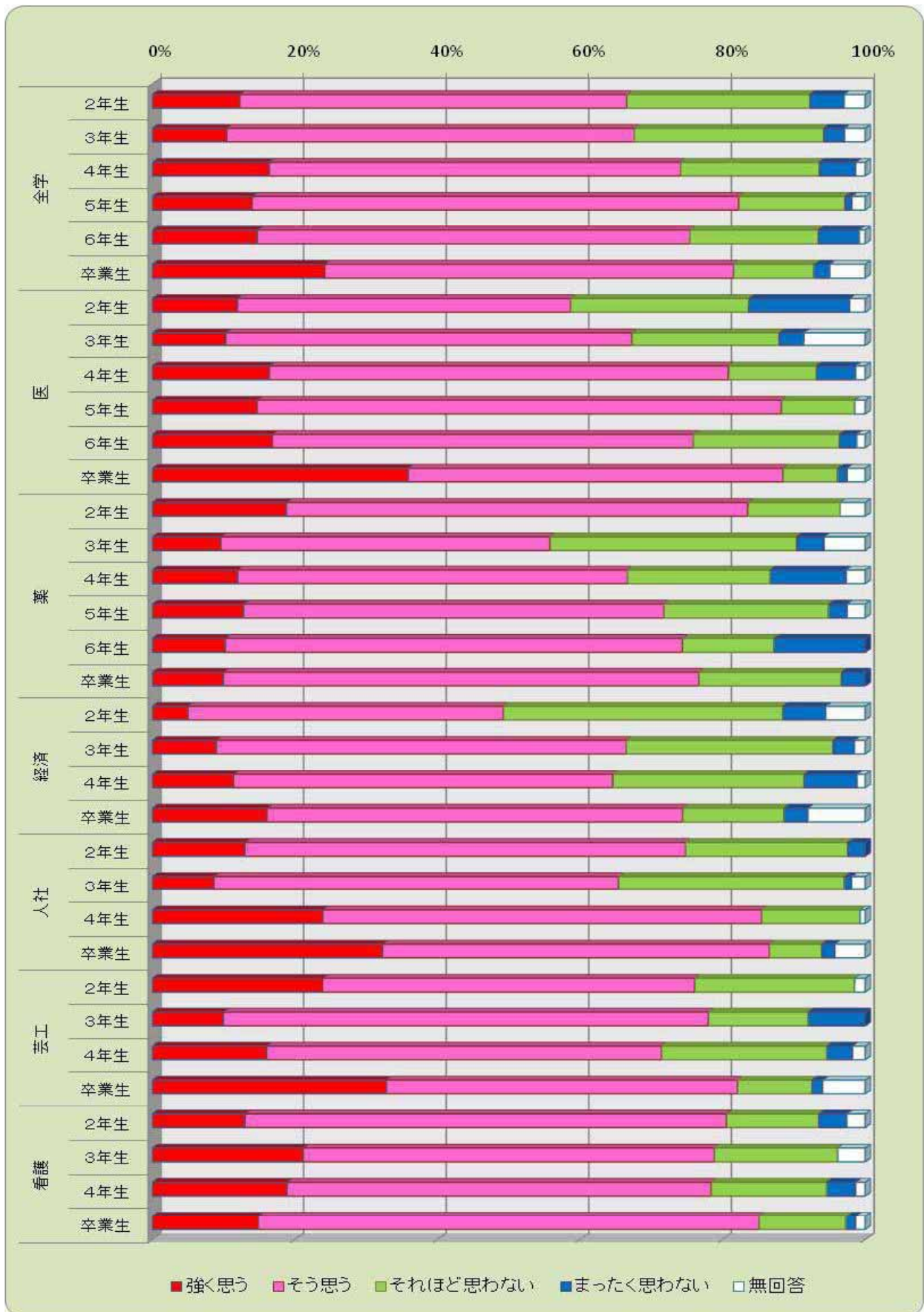
*「強く思う」「そう思う」と回答した学生の比率は、看護学部が一番高く80.9%。以下、人文社会学部79.4%、芸術工学部77.1%、医学部76.1%、薬学部71.9%、経済学部63.8%でした。

*昨年度に比べ、「強く思う」「そう思う」と回答した学生の比率が増加したのは、人文社会学部（4.4ポイント）および芸術工学部（2.1ポイント）、減少したのは経済学部（2.2ポイント）、医学部（1.6ポイント）、薬学部（1.1ポイント）、看護学部（0.3ポイント）でした。

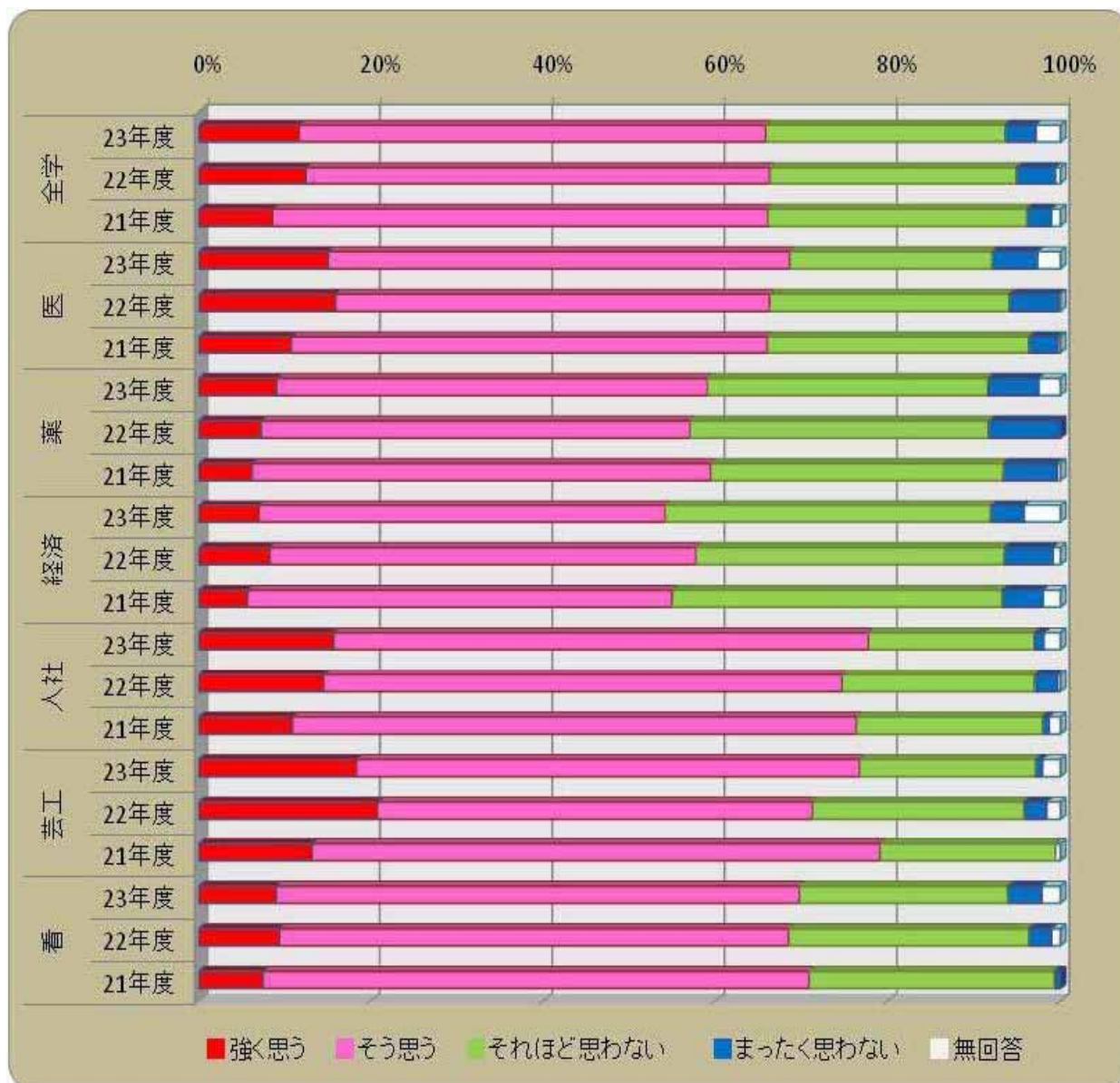
*学年別に見てみると「強く思う」「そう思う」と回答した学生の比率は、昨年度と同様に、概ね高学年の方が高い傾向にあります。

【全学部学年別】

① 全体として、これまでのところ大学で授業の経験には満足している

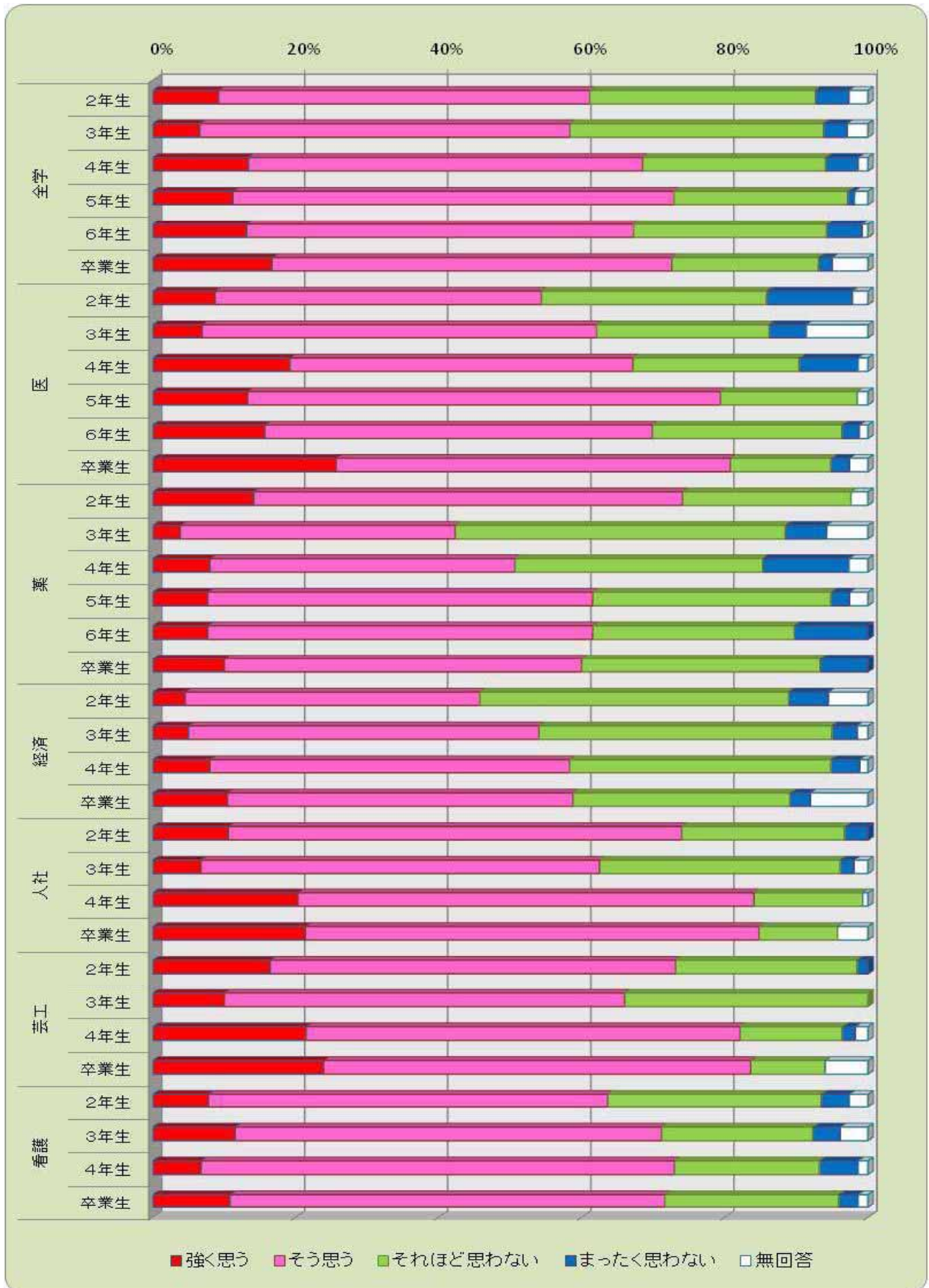


② 全体として、授業を楽しむことができた

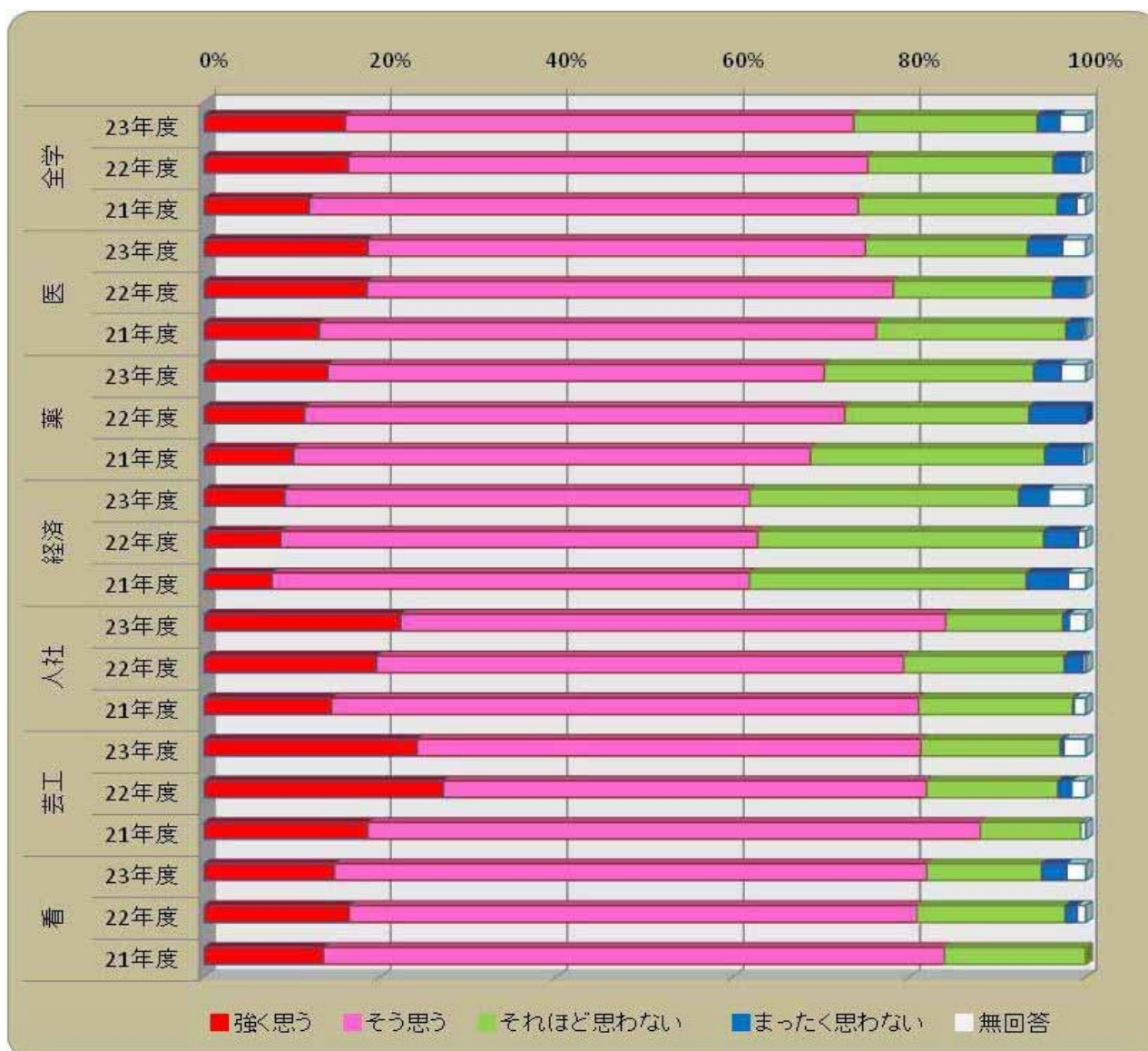


【全学部学年別】

② 全体として、授業を楽しむことができた

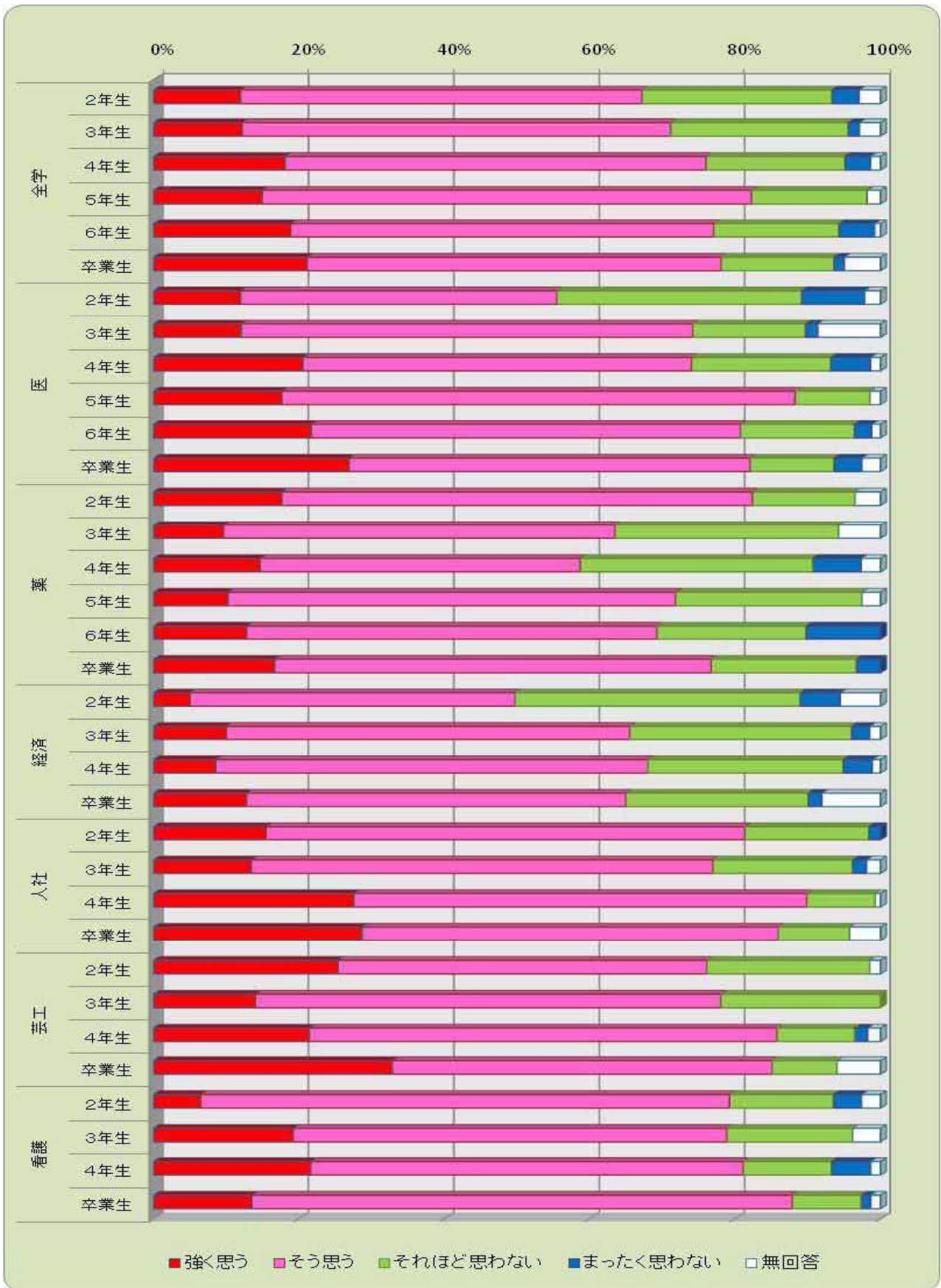


③ いろいろな授業から知的刺激をうけた



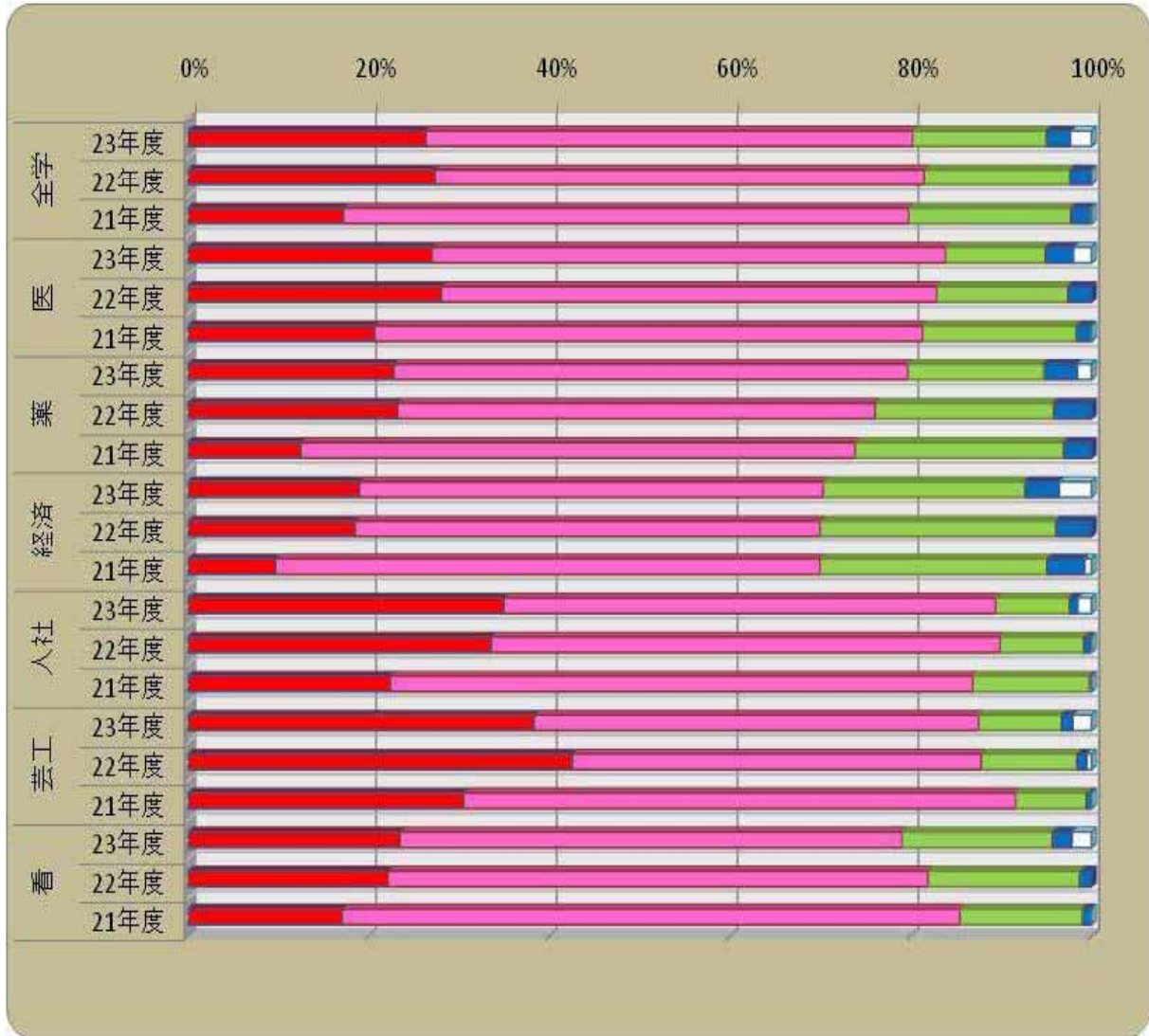
【全学部学年別】

③ いろいろな授業から知的刺激をうけた

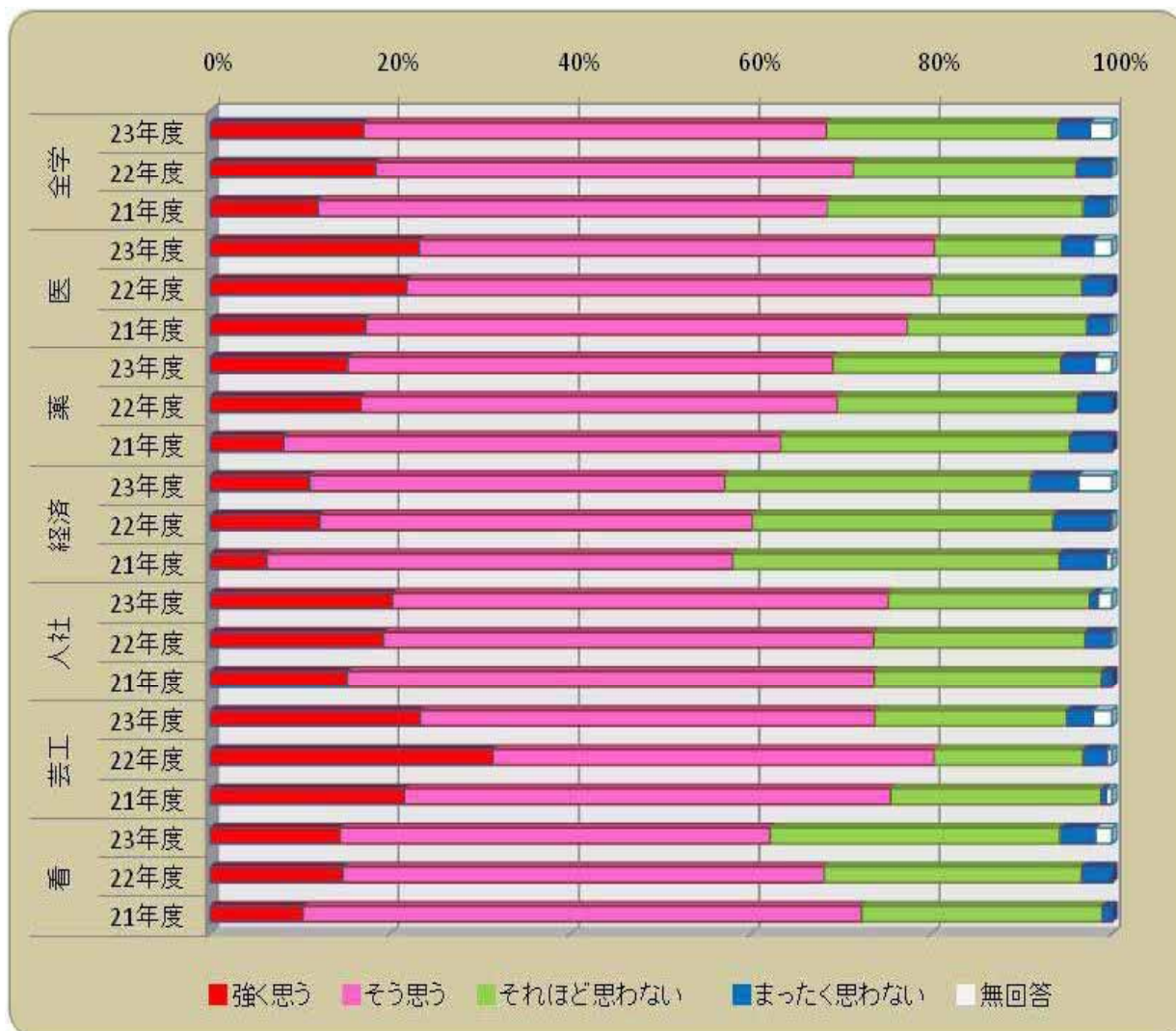


これまで受けてきた授業内容について

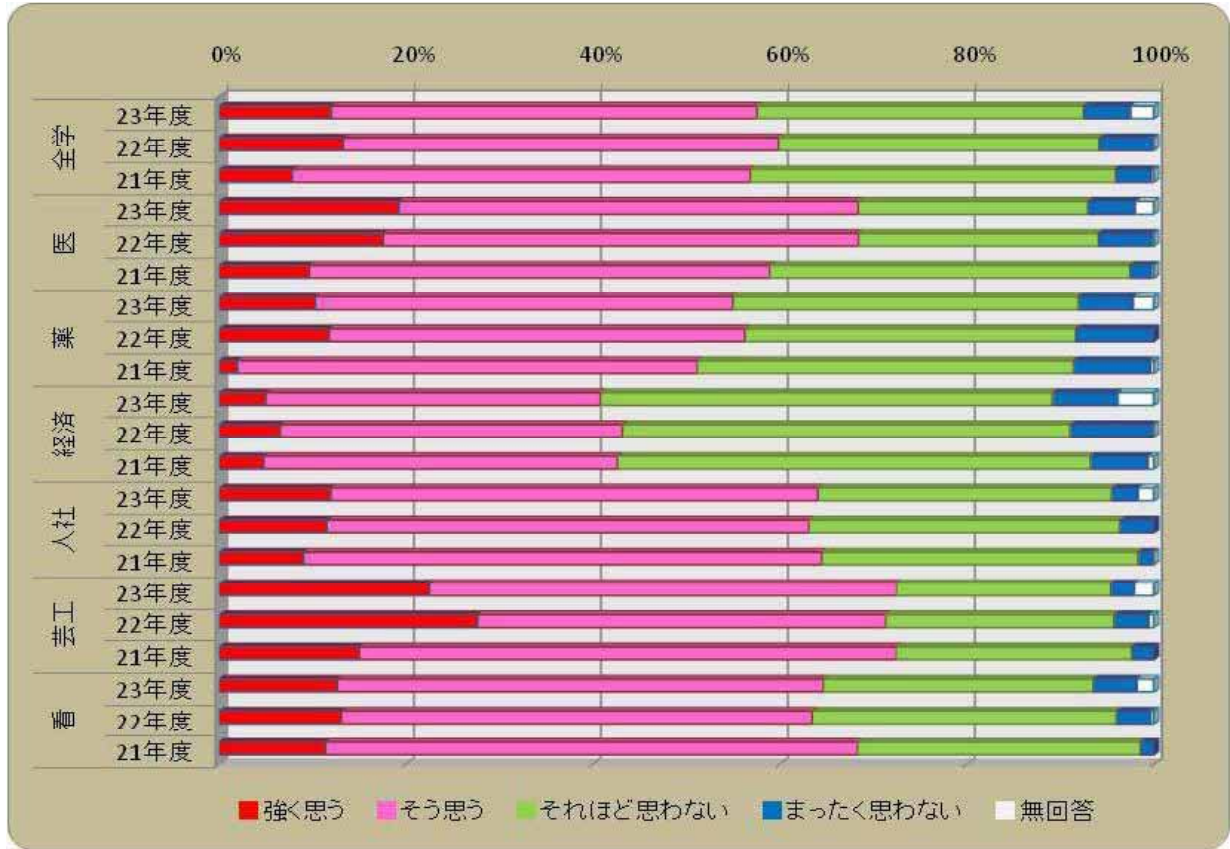
① 知的刺激を感じる授業に出会った



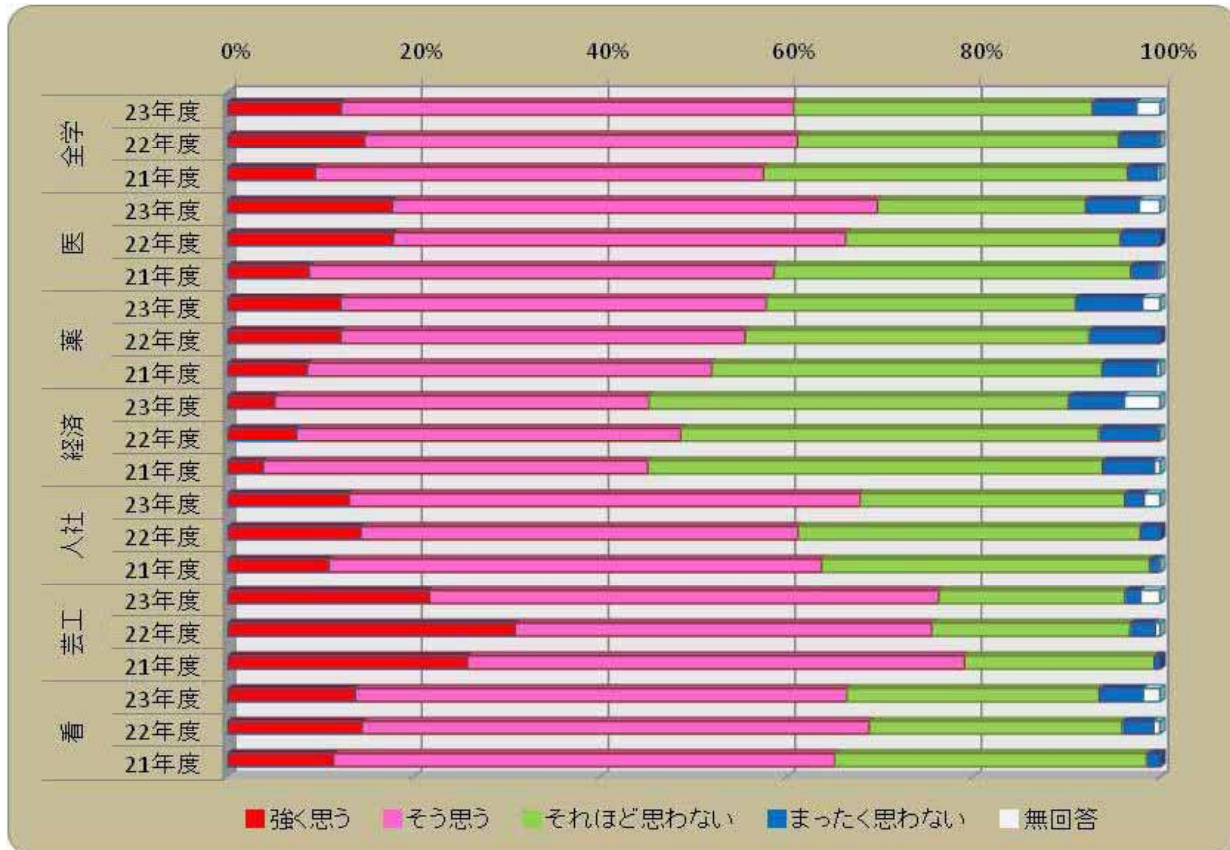
② 学問の面白さがわかってきた



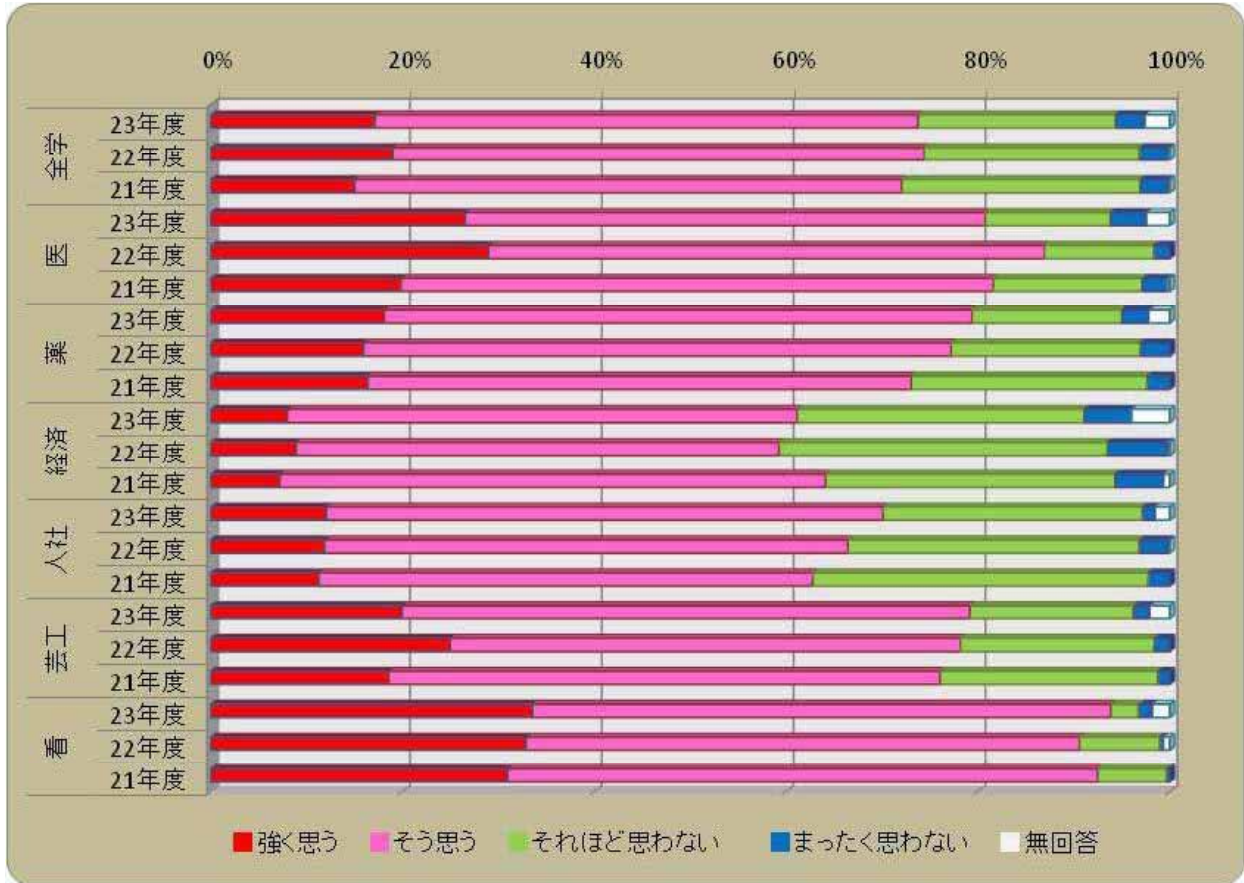
③ 授業は興味を引くものが多かった



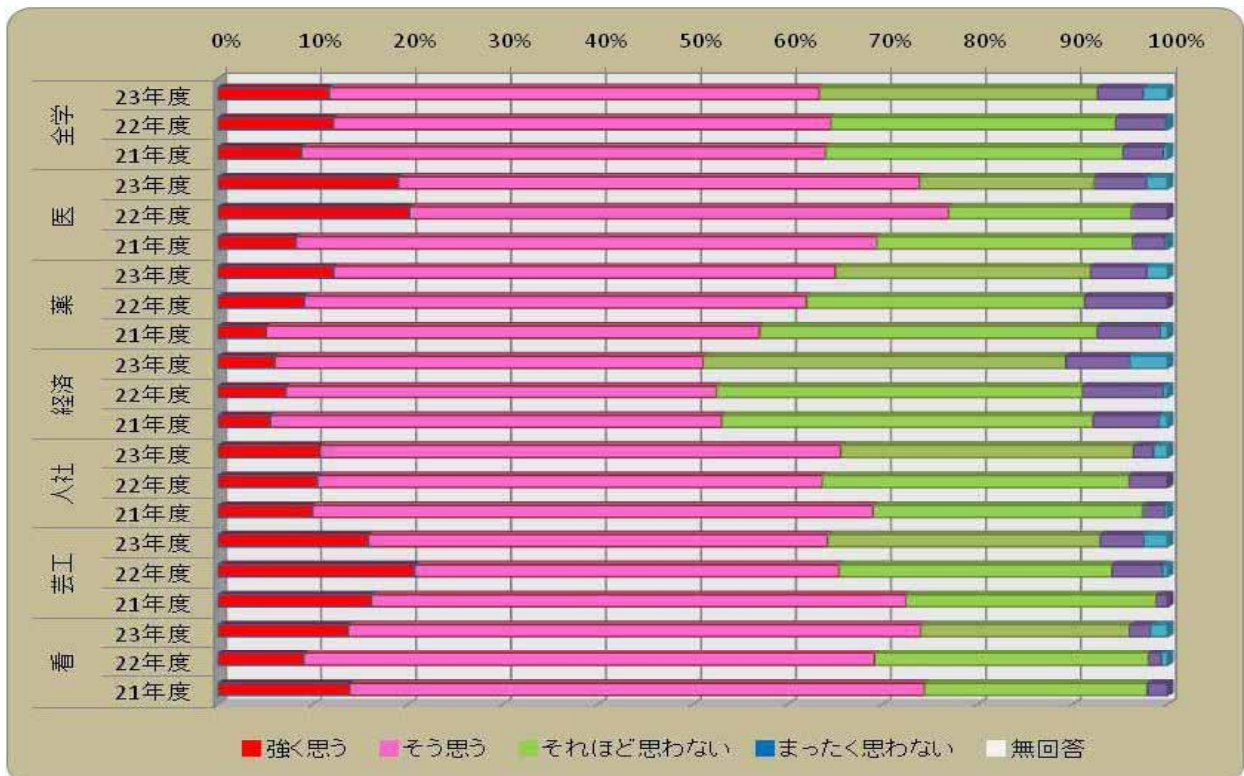
④ やりがいのある授業があって楽しい



⑤ 授業で学んだことは役に立つ

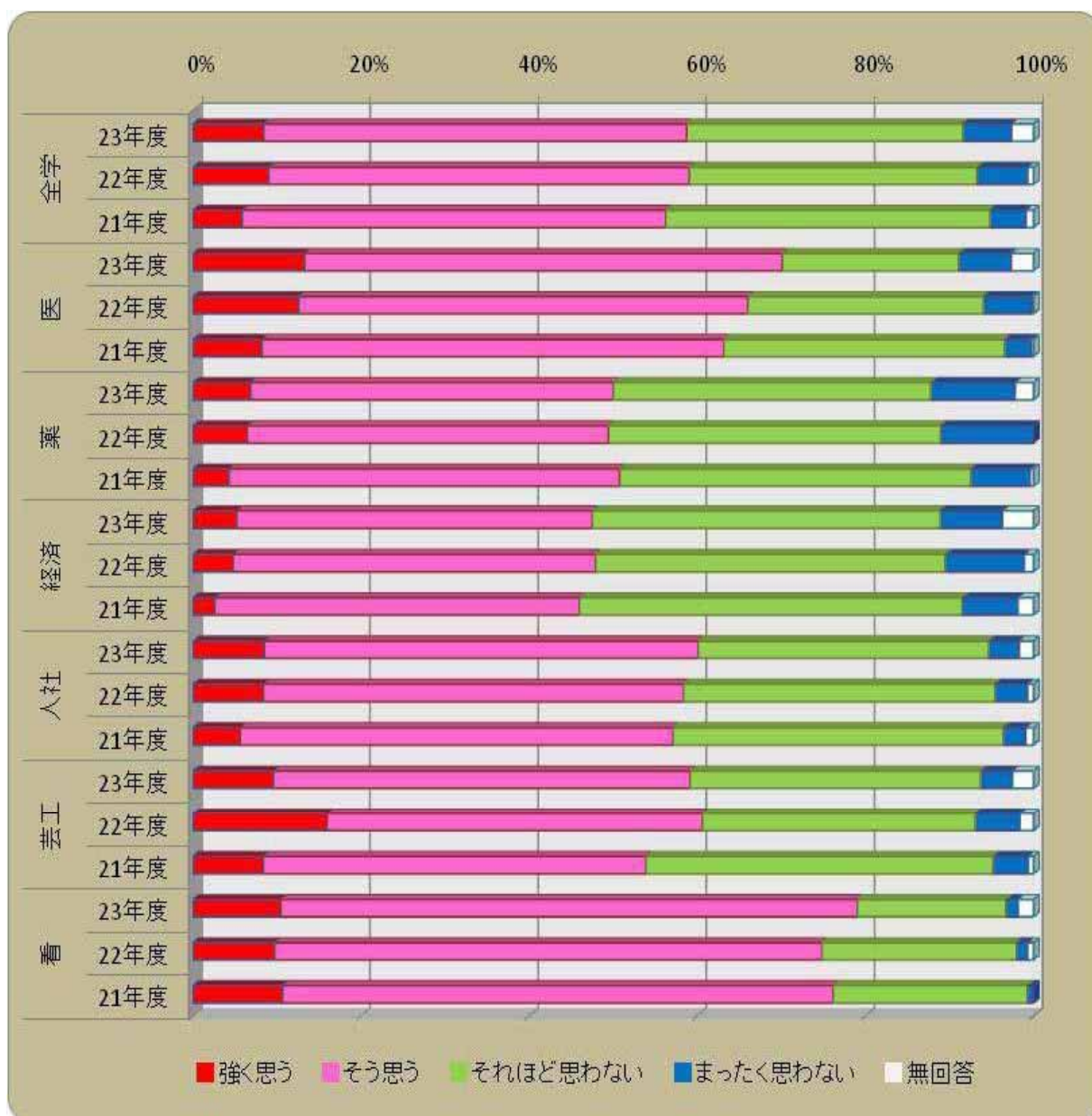


⑥ 大学での勉強には満足している

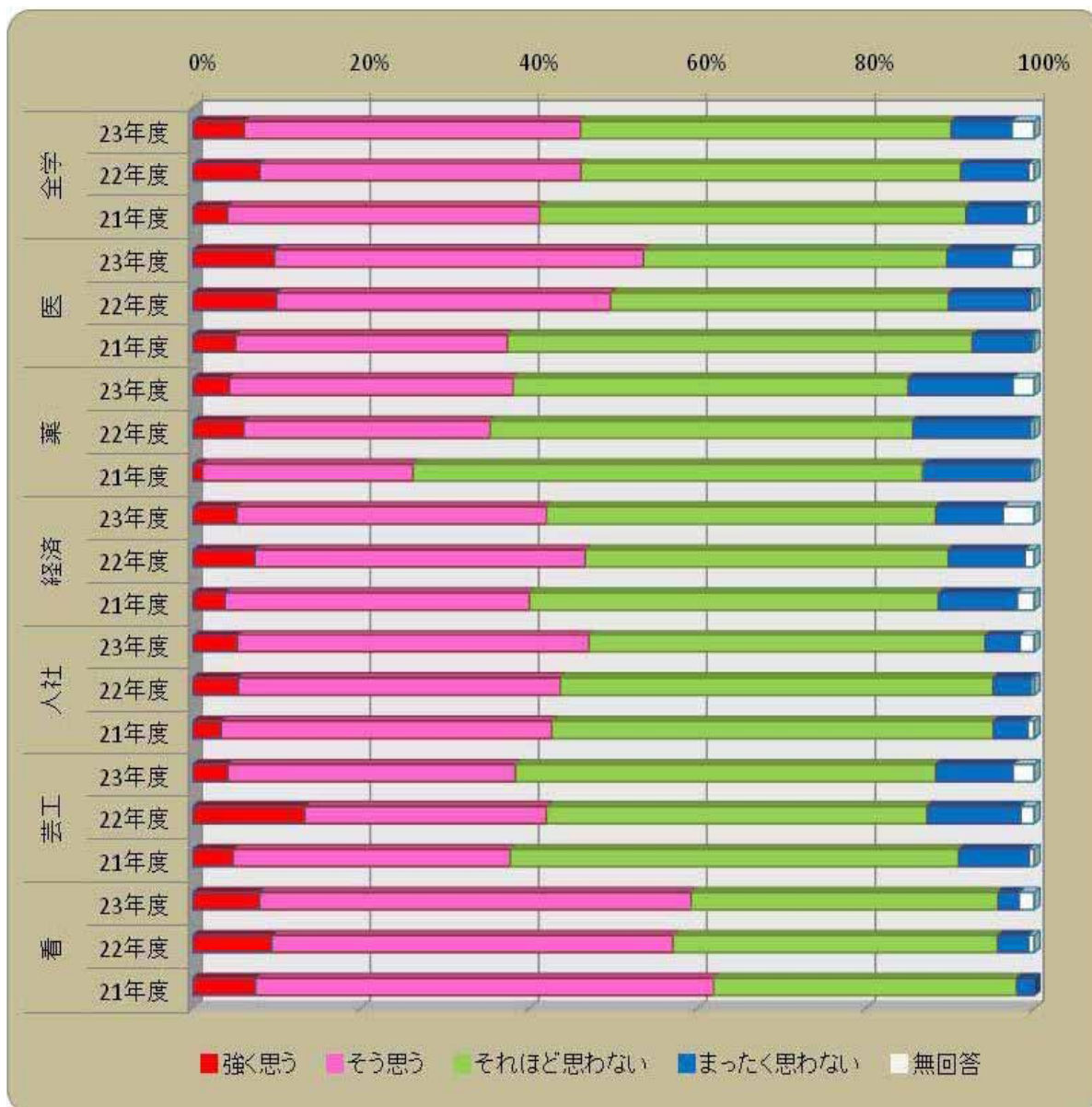


授業への教師の取り組みについて

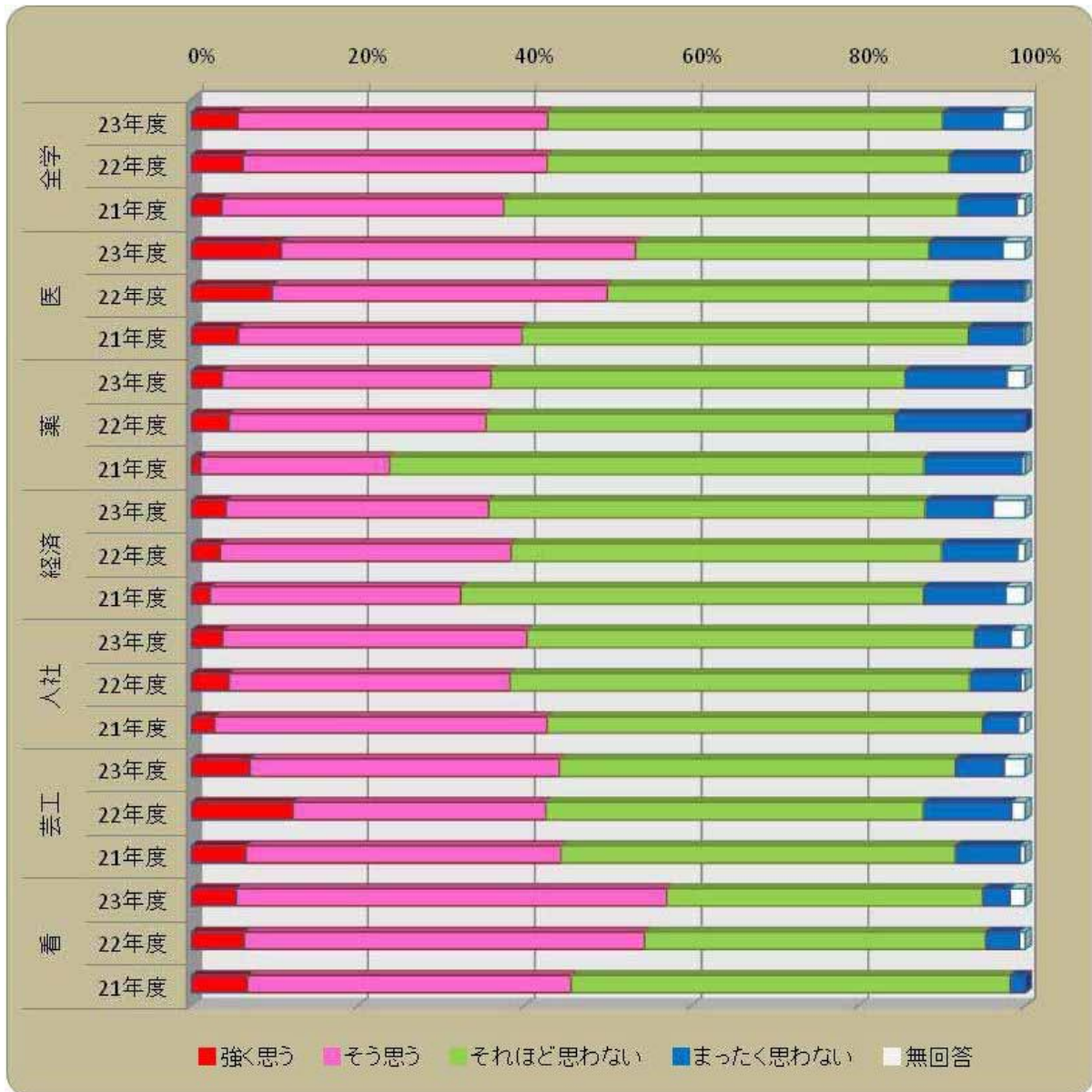
① 学生のことを考えて教えようとする先生が多い



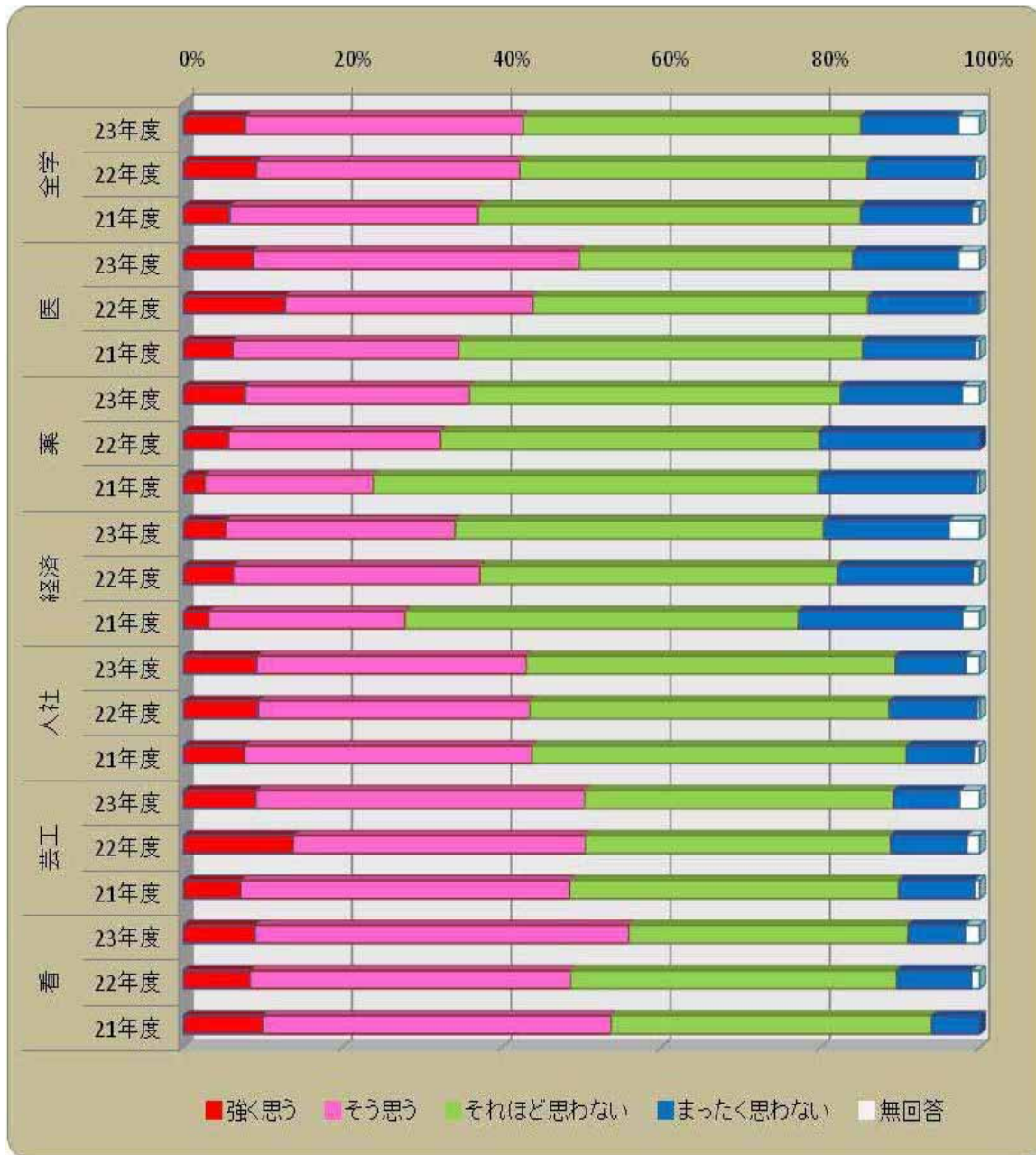
② 理解度を確認しながら授業を進める先生が多い



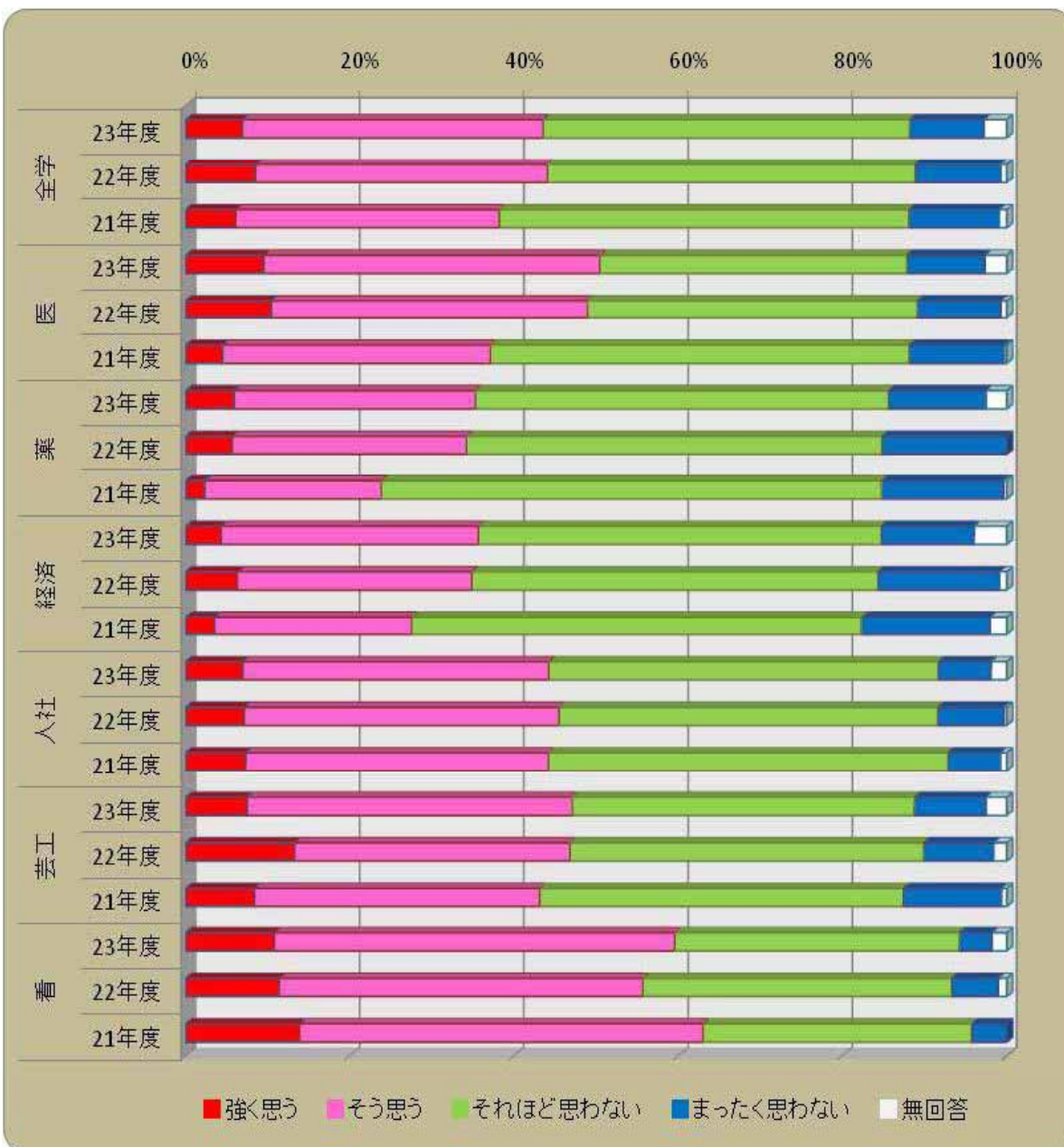
③ 教え方がうまい先生が多い



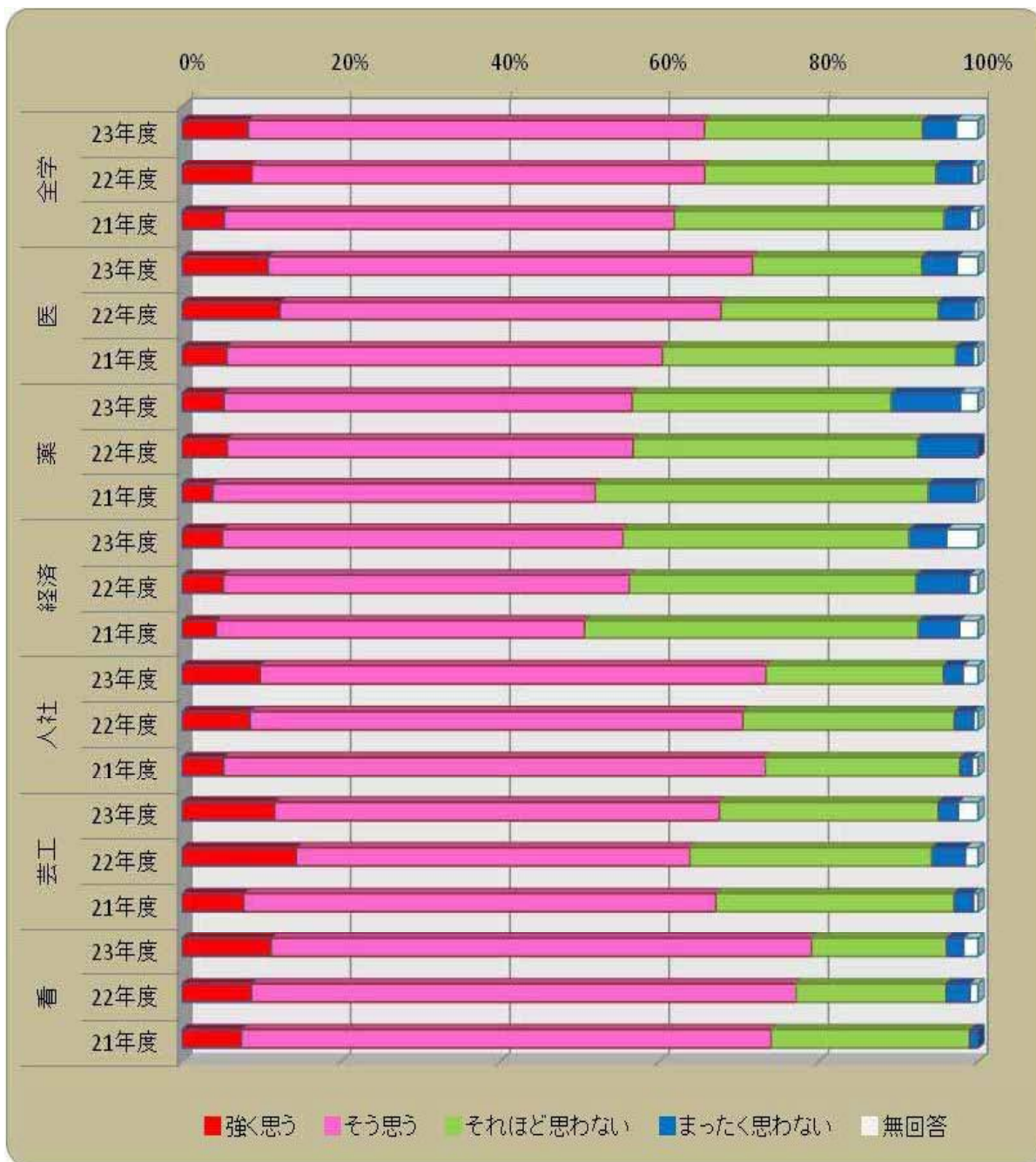
④ 自分の成長を気にしてくれる先生がいる



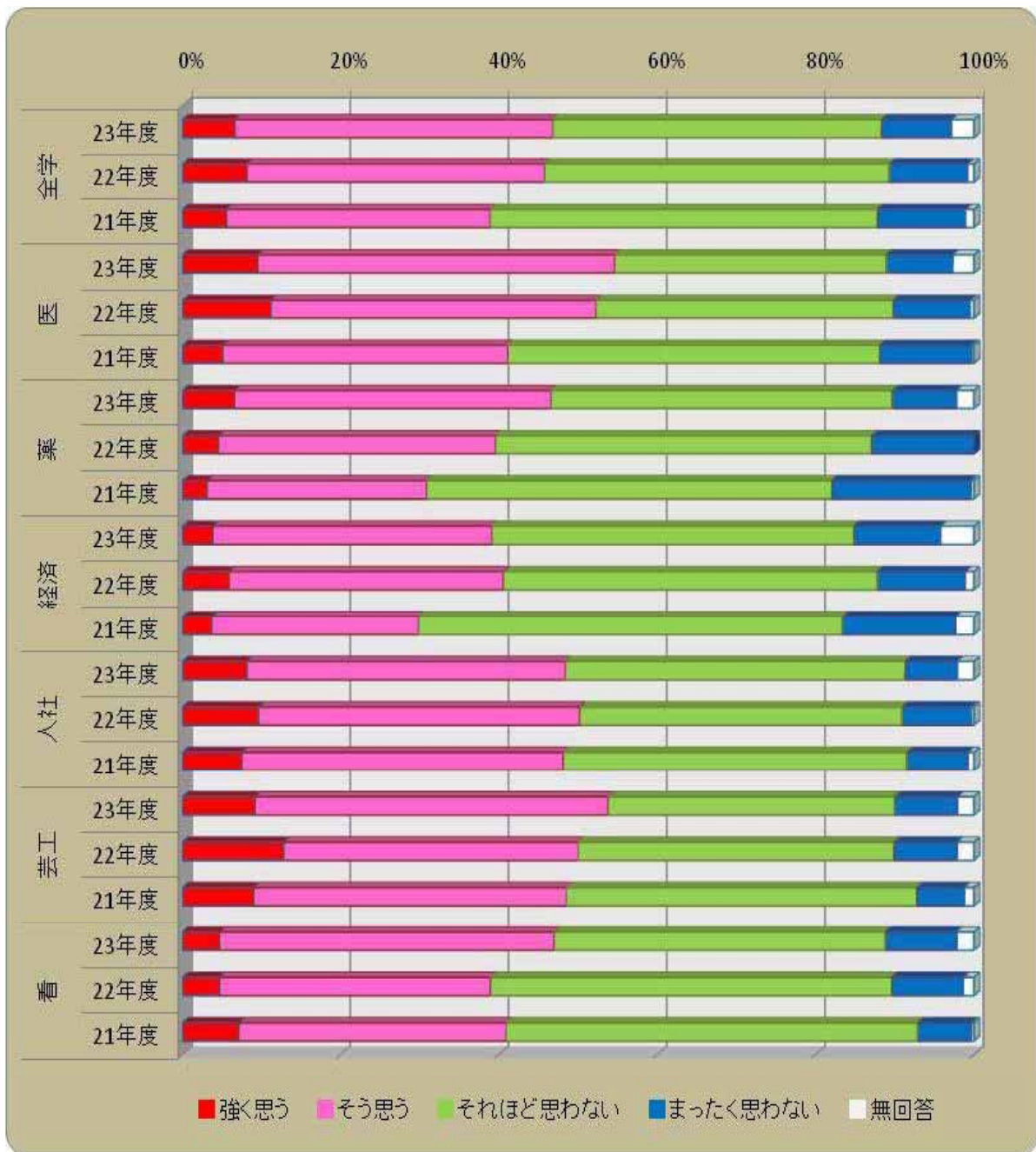
⑤ 相談をしやすい先生が多い



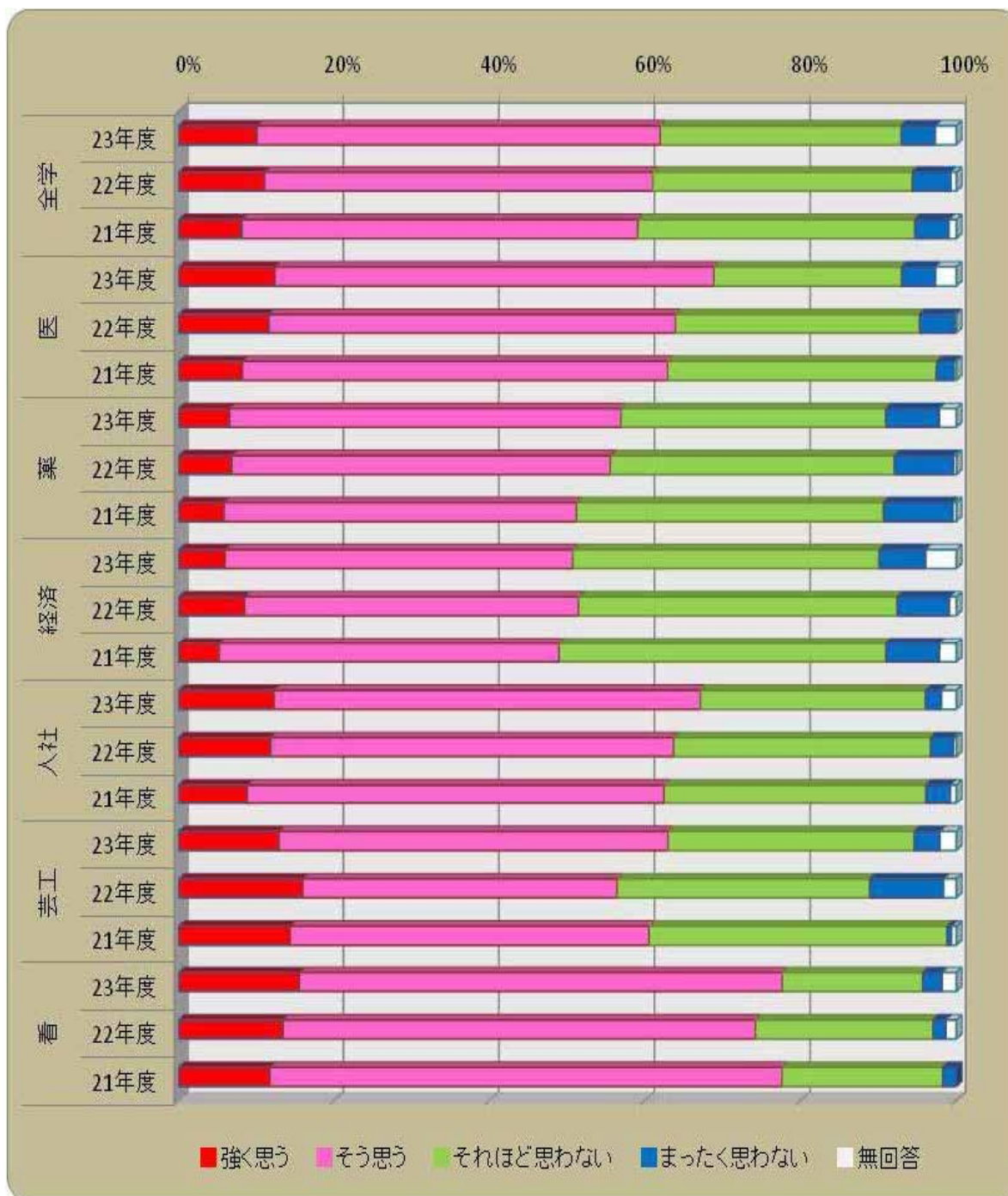
⑥ 授業の内容は全体的によい



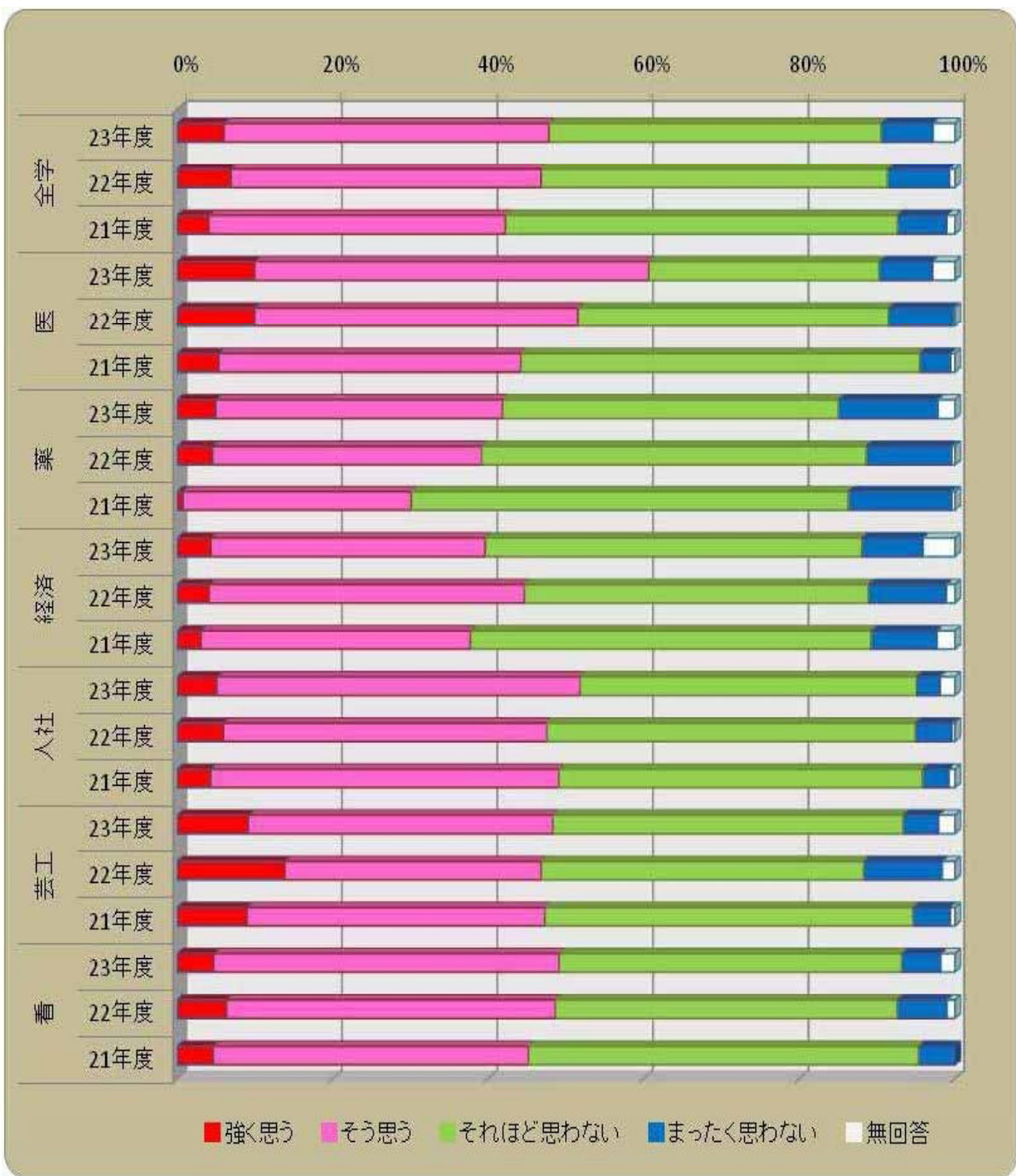
⑦ 議論の相手をしてくれる先生がいる



⑧ 授業に熱意をもった先生が多い



⑨ 授業を面白くしようとする先生が多い



平成 23 年 12 月 1 日

大学満足度調査結果について

教育支援センター長

大学満足度調査は、平成 19 年度以降全学生を対象に毎年実施しています。その結果は、教育改革やカリキュラム改革等に有効に利用されてきました。

しかし、調査結果の分析及び対策は学部毎に任されており、大学全体としての分析や評価が行われてきませんでした。この問題を解決するために、平成 23 年 4 月に発足した教育支援センターが中心となって全学的視点に立った分析や評価を行い、学部に対して報告や提言を行うことになりました。

従前、大学満足度調査結果は、調査年毎、学部毎、学年毎、設問項目毎に回答を集計し、相対度数による横棒グラフで表示してきました。

この方法では、経年変化や学部間の差等が明確でなく、全学的視点に立った分析や評価に適していないことから、各回答をポイントに換算し平均点をとる方法、すなわち、大学満足度調査版 GPA で表示することにしました。

各設問に対して用意されている回答は、「強くそう思う」、「そう思う」、「それほど思わない」、「まったく思わない」の 4 段階であり、調査開始当初にあった中間的な評価は廃止され、肯定的か否定的かに明確に分けるようになっております。この趣旨を活かして

強くそう思う = +3

そう思う = +1

それほど思わない = -1

まったく思わない = -3

とポイントをつけることとしました。したがって、評価点は -3 ~ +3 の間の点数となり、次のような意味を持つこととなります。

+3	全学生が完全肯定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。
+1.2	+3 が 20%、+1 が 70%、-1 が 10%、-3 が 0% の場合が相当し、極めて肯定的意見が多いことを意味する。
+0.6	+3 が 20%、+1 が 50%、-1 が 20%、-3 が 10% の場合が相当し、かなり肯定的意見が多いことを意味する。
0	肯定的意見と否定的意見が拮抗することを意味する。
-0.6	+0.6 の逆であり、かなり否定的意見が多いことを意味する。
-1.2	+1.2 の逆であり、極めて否定的意見が多いことを意味する。
-3	全学生が完全否定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。

大学満足度調査結果全体に対するコメント

(1) 3ヶ年の経年変化を見たとき、若干の上下はあるものの、学部毎に値が安定的に推移しています。調査対象の学生が入れ替わっても調査結果の変化が少ないことは、学部毎の体質ないし体制の変化が少なく、学生による評価が固定していることを意味し、その調査結果は信用に足るものであると考えられます。

(2) 調査結果に対する対応

- ・評価点が+1.2 を超える（極めて満足度の高い）項目については、現時点では特に問題はないことになりませんが、今後も高い評価を受け続けるようにすべきと思われます。（S）
- ・評価点が+0.6 を超える（かなり満足度の高い）項目については、緊急度は低いものの、さらに満足度を高めるべく努めるべきであろうと考えられます。（A）
- ・評価点が0～0.6 である（不満足というほどではないが満足度が低い）項目については、満足度を高める努力が必要と考えられます。（B）
- ・評価点がマイナスである項目は、早急な対策が必要と考えられます。（C）
- ・評価点が-0.6 以下である項目は、特に緊急に対応すべきであると考えられます。（D）

学年別C及びDの項目数

